



みやぎ生活協同組合

CSR Report 2011

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2011

社会・事業・環境活動についての報告書

わたしたちは、協同の力で、人間らしいくらしを創造し、平和で持続可能な社会を実現します。

CSR
CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2011
2011

CSR Report 2011

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2011

理念

Corporate Ideology

「協同組合の定義・価値・原則」

1995年9月に開催された国際協同組合同盟(ICA)100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

- 定義……協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。
- 価値……協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。
- 原則……協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 【第1原則】自発的で開かれた組合員制 | 【第5原則】教育、訓練及び広報 |
| 【第2原則】組合員による民主的管理 | 【第6原則】協同組合間協同 |
| 【第3原則】組合員の経済的参加 | 【第7原則】コミュニティへの関与 |
| 【第4原則】自治と自立 | |

●みやぎ生協のめざすもの

わたしたちは、協同の力で、
人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します。

- 「協同」とは、人間と人間が、互いにその人間性を尊重しあい、心をかよわせ、助け合って活動することを意味します。わたしたちは「協同」の力こそ、目的を達成するための原動力であることを確信します。
- 「人間らしい暮らし」とは、豊かな暮らしを支えるモノだけでなく、心の豊かさや健やかさ・ゆとりがある暮らしです。わたしたちは、人間らしい暮らしや社会を、与えられるものではなく、自ら創り出す目標として掲げます。
- 「平和」は、生活活動の前提でもあり、めざすものです。また、「持続可能な社会」とは、地域環境の保全を考え、限りある資源を、自然との調和を大切にしながら有効に活用していきます。

●スローガン

一人は万人のために、万人は一人のために
平和とよりよき生活のために
みんなでつくる豊かな地域

●キーワード

環境保全、自然との調和
環境・安全・安心そしてより安く

Contents

理念・ご挨拶

3.11 東日本大震災 希望・未来

悲しみを乗り越えて、ともに歩もう…… 02

01 第1章 食品の安全・安心の取り組み

食品の安全を確保する仕組みをさらに強化しています …… 10
顔とくらしの見える産直は、40周年を迎えました …… 12
食料自給率を高める商品づくりを進めました …… 15

02 第2章 メンバー&社会貢献活動

生協運営に参加し、世代を越えた輪が広がっています …… 18
人間らしいくらしと豊かな地域づくり運動を推進しています …… 20
平和とよりよき生活のために …… 22
地域社会への貢献・国際協力活動を進めています …… 24

03 第3章 事業活動

一人でも多くの方に安心してご利用いただけるように …… 28
働きやすい職場づくりに取り組んでいます …… 30
お取引先とのパートナーシップを形成、
公正な取引の徹底に取り組んでいます …… 31
機関運営とコンプライアンス経営の仕組み …… 32
みやぎ生協の組織概要、2010年度決算概要、
コープ東北サンネット事業連合 …… 33

04 第4章 環境活動

環境理念・環境方針、環境マネジメントシステム …… 34
低炭素社会構築に向けて一歩ずつ確実に進めています …… 35
循環型社会構築に向けて、前進しています …… 36
メンバー活動による環境保全の取り組みが広がっています …… 37
外部環境監査、ISO審査、内部環境監査 …… 39
事業活動と環境のかかわり …… 40

わたしたちは、協同の力で、
人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を
実現します。

(みやぎ生協のめざすもの)

「CSRレポート2011」の発行にあたって

みやぎ生協「社会・事業・環境活動についての報告書」は、この1年間の生協の社会的責任を負うべき課題とその取り組み、2011年3月11日に発生した東日本大震災に関連するみやぎ生協の取り組みと全国からの支援についてまとめています。

3月11日の巨大地震、続く大津波、東京電力原子力発電所の重大事故発生から4ヶ月が過ぎました。みやぎ生協には、県内世帯の67%の方が加入しており、大震災後はまず緊急に必要な、水・飲料・食料・乾電池等の生活物資を供給するという社会的使命を果たすことを第一に考え、役員一同全力で取り組みました。物流のインフラが被災し、ガソリン・軽油など燃料が不足し困難を極める中、自治体からの要請に応じて避難所に生活物資をお届けする任務は、3月11日から1日も途絶えることなく38日間続き、その数量は17の自治体に約400万点におよびました。日本生協連・コープこうべを中心に生協グループとしての全国からの大きな人的・物的支援、お取引各社のいち早い対応、メンバーの支えあいと分かち合い、協同連帯の力なくしては生協の社会的使命を果たすことはできませんでした。

みやぎ生協はメンバーとともに生協事業を早期に再建し、被災者の生活再建と地域産業の立て直し、宮城そして東北の復興に役割を果たしてまいります。

2010年度、みやぎ生協は「みやぎ生協食品の安全・安心に関する基本方針」を策定、「顔とくらしの見える産直」は40周年を迎えました。コンプライアンス経営の徹底に努め、環境負荷低減への取り組みをすすめました。みやぎ生協は東北地方の拠点生協として、すべての職員が、メンバー・お取引各社・地域社会からの信頼に応えられるよう日々の業務に取り組みます。みやぎ生協へのみなさまのさらなるご支援ご指導をお願い申し上げます。



みやぎ生活協同組合 理事長

齋藤 照子

2011.

3.11 東日本大震災



悲しみを乗り越えて、
ともに歩もう・・・

2011.3.11 14:46

その時 みやぎ生協は・・・

地震発生直後地震対策本部を
立ち上げ被災者支援と
安否確認活動を開始

3月11日の地震発生と同時に災害対策本部を立ち上げ、被災者支援活動、安否確認活動を重点に活動を開始しました。本部棟が大きな被害に遭い、生協文化会館ウィズに設置、対策本部会議は、4月1日まで36回開催し、全体の状況の共有化と必要な判断、指示を継続的に行いました。



災害対策本部で情報を共有化し行動を確認

行政との協定に基づき緊急物資の提供と被災者支援に立ち上がる

対策本部では、被災者への支援を第一として、行政からの要請に日生協の協力を得ながら物資の調達、運搬を行い、店舗・共同購入は、生活に必要な物資の提供を一日も早く正常に戻す取り組みを重点としました。

地震発生当日、亘理町からの
要請でパン2,000個、
水2,000本を搬送

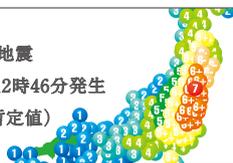
3月11日発災直後、亘理町の要請に基づきパンと水各2,000個を搬送したのをはじめに、その後の行政の要請について昼夜を問わず対応、全力を尽くしました。



生協本部に次々と緊急物資が到着

東日本大震災 data

東北地方太平洋沖地震
2011年3月11日午後2時46分発生
マグニチュード9.0(暫定値)



◆宮城県の震度

震度7

栗原市

震度6強

仙台市宮城野区・塩竈市・東松島市・大衡村・涌谷町・登米市・大崎市・名取市・蔵王町・川崎町・山元町

震度6弱

仙台市青葉区・仙台市若林区・仙台市泉区・気仙沼市・南三陸町・石巻市・松島町・白石市・角田市・岩沼市・大河原町・亘理町・利府町・大和町・富谷町

3.1114:46



生協本部に届けられた緊急物資を避難所へ届けるためにトラックへ積載する職員

一日も途切れることなく 38日間、 物資を約352万点提供

3月11日から4月17日までの38日間、1日も途切れることなく約352万点、5月20日まで本部及び店舗から提供した物資は、約399万点となりました。現在も要請は続いており、対応しています。

提供した自治体は、17市町村 最も多かったのは 石巻市の222万点

仙台市と各市町村は県を通じて計17市町村から要請があり、物資を搬送しました。石巻市222万点、仙台市92万点、東松島市15万点を中心に、食料品・生活用品だけでなく、自衛隊で使用する炊き出し材料・調味料・掃除用品等の要請にも応えました。

5月には仮設住宅4,000軒分の 日用雑貨品を提供

仙台市の要請を受け、共同購入では、仮設住宅入居者用の日用雑貨品26点(1世帯分)を4,000セット提供、入居者が不便なく生活できるよう対応しました。



女川町の避難所へ緊急物資を配達



緊急物資を積んで避難所に向けてトラックが発発



生協本部へ緊急物資を搬入



コープこうべからの応援者のみなさん



コープさっぽろからの応援者のみなさん

全国の生協からの 大きな連帯の支援

3月13日、 コープこうべ先遣隊を皮切りに 全国各地の生協から 延べ1,890人が支援

3月13日から5月19日まで、全国各地の生協からみやぎ生協に対する支援は59生協、延べ応援者数2,992人で、店舗の片付け・品出しや共同購入のお見舞い活動・物資支援搬送、及び共済の異常災害見舞金の支援活動にご尽力いただきました。

東日本大震災 data

◆宮城県の被災状況

※2011年7月5日現在/調査中の市町村は含まず

死亡者	9,203名	住家被害	198,323名(うち家屋全半壊117,109軒)
行方不明者	4,613名	避難所数	320ヶ所/避難者数 14,889名
負傷者	3,724名(重症・軽症・その他)		

◆みやぎ生協の被害状況

※2011年6月30日現在

死亡した職員	16名
職員ご家族死亡	135名
※2親等以内	

◆職員住居の被害

※2011年6月30日現在

全壊・全流出	363棟
半壊・半流出	327棟
一部倒壊・床上浸水	645棟

希望・未来

Hope Future

3.11 東日本大震災
 悲しみを乗り越えて、
 ともに歩もう・・・



津波により、瓦礫、車などが押し寄せた閉上店

2011.3.11 14:46

その時 店舗は・・・

地震発生時は日頃の訓練通り
 落ち着いてメンバーさんを
 避難誘導

地震直後、大きな声でお買い物中のメンバーを店外に誘導し、全店でメンバーに怪我はありませんでした。この間の災害避難訓練が活かされました。



地震により損壊した新田東店



地震により損壊した六丁の目店

通信手段がない中、各店の判断で27店舗が店頭での販売を実施



震災当日店頭販売した大富店

11日は、27店舗が店頭での商品販売を行いました。照明がなく自動車のヘッドライトで照らして販売も行った店もありました。商品の価格を100円、200円というように切の良い価格にしたり、個数制限を行ってできるだけ多くの方に商品を購入していただけるようにするなど、状況に応じて柔軟に対応することで、多くの感謝の言葉をいただきました。



黒松店の店頭販売に並ぶメンバー

◆店舗被災状況

被害が甚大な店舗は次の14店舗でした。その他、大きな被害を受けていなくとも、多くの店舗で壁や天井に被害が生じました。

津波被害大

閉上店・大代店・イトピア店・石巻渡波店・石巻大橋店

建物設備被害大

古川南店・黒松店・白石店・六丁の目店・加賀野店・榴岡店・新田東店・南光台店・南小泉店

※イトピア店と閉上店は6月20日閉店しました。

東日本大震災 data【店舗】

2日目からは44店舗で店頭販売を実施

12日は44店舗が営業を行い、食料品などが不足する中で、メンバーの暮らしを支え続けました。3日目以降は、状況を見つつ徐々に販売スペースを拡げました。



南光台店の店頭販売

ガソリンが逼迫した状況から店舗に泊り込みした職員も…

ガソリン不足のため出勤できない状態になった一部の職員は、店舗に泊まり込み翌日の営業に備えました。また、治安状況が不安定な地域の事業所では、急遽、夜間警備員を配置し安全を確保することに努めました。

全国の仲間から応援を受け、片付け作業などをはじめました

3月17日からは、全国から駆けつけてくれた多くの生協の仲間の応援を得て、店内やバックルームで、破損した機器類や散乱した商品の片付け作業を本格化しました。

入場制限と個数制限で多くのメンバーさんへ迅速に提供

1度に50人ずつ入店しお買い物をさせていただき、必要なものをお聞きして店内から持ち出してお渡りする、1人につき10個のみの利用とさせていただくなど、状況に応じ、各店で最善と思われる方法をとりながら供給を継続しました。

4月1日から37店舗で「夜9時まで」のほぼ通常営業までこぎつける



開店前に品揃えする農産売場



開店前のあわただしい惣菜の作業場

4月1日からは、仕事帰りでも安心してお買物をしていただけるように、閉店時間を遅くしたり営業する店舗の拡大を進めました。さらに5月1日からは、閉店時間を11店舗で午後10時、4店舗で午後11時まで拡大しました。



夕方になっても品数がある売場

希望・未来

Hope Future

3.11 東日本大震災
悲しみを乗り越えて、
ともに歩もう・・・



震災から1ヵ月後の4月11日共同購入の配達再開（気仙沼市内）

2011.3.11 14:46

その時 共同購入は・・・

信号が止まり、道路が寸断され、翌週の配達是不可能に

当日は、配達を中断し、高齢のメンバーの安否確認や人命救助などを行いました。しかし3月26日まで共同購入の営業活動は休止せざるを得ませんでした。

災害協定に基づき
災害物資の配送や
災害支援活動にフル回転

自宅が被災した職員も出勤し、お見舞い活動や行政への物資配送などを行いました。



支援物資を積み込む職員



緊急物資を搬送した共同購入トラック



蒲生地区でのお見舞活動



お見舞品を喜ぶ七ヶ浜保育所のメンバー

3月14日から
登録メンバーさんへ
お見舞い活動を開始

約14万8千名の方にお会いし、飲料水・LLパン・缶詰などすぐ食べられる食品を中心に約60万点のお見舞い品をお届けすることができました。

入荷が途切れ一律10リットルの
給油制限を余儀なくされました

灯油は3月16日から1軒18リットルで順次配達を開始しましたが、入荷が途切れ、3月23日から一律10リットルの給油制限を余儀なくされました。仕入れ価格は高騰しましたが、震災被害の中、価格を据え置きメンバーの暮らしに貢献しました。



チラシ・注文書の配達再開

全国の仲間からの支援

全国の生協からの支援を受け、様々な活動を行いました。

共同購入では、全国各地から支援に駆けつけてくれた生協の仲間がお見舞い品の搬送支援、お見舞い活動、行政の要請を受けた災害支援物資の搬送などの応援に尽力くださいました。また、石巻・気仙沼支部の営業再開にあたっては、91の方が泊まり込みで担当者同乗の支援をいただきました。

HOPE

3月30日。気仙沼の大島はフェリーが就航できず、生協としても何とかして支援物資を届けたい。そのような中、宮城県漁協の巡視船を借りることができました。支援物資を運ぶためのトラックが気仙沼港へ到着。



灯油配達を喜ぶ南三陸町のメンバー

3月28日に震災後初の 4月第2週チラシ・注文書を配布

再開第一号のチラシは、写真もなく197品目のものでしたが、商品部が徹夜で仕上げました。印刷は新潟で行い仙台まで配送しました。商品は、数量限定とせざるを得ませんでしたが、1人平均10点以上確保しました。

4月4日から4月2週号の 注文書を回収

震災後の初回収となった4月2週号は、5万7,671人の利用実績にとどまりました。震災前の3月2週号と比較すると6万4,502人少ない実績でした。被災地を心配し、被害の少ない地域に暮らすメンバーには利用を控える傾向もありました。

寒い日が続く中、 灯油配達を早々に再開

灯油の在庫確保のために、宮城県や灯油元売販売会社との交渉を行い、更には国への粘り強い交渉が奏功し、やっとのことで必要量を確保、4月1日から満タン給油を再開しました。震災被害が大きかった石巻、気仙沼地域へは、通常配達を行わない土曜日、日曜日にも灯油ローリー車台数を増便して給油しました。



共同購入気仙沼支部の配達再開



石巻市内でのお見舞い活動



気仙沼大島へ漁協の巡視船を借りてお見舞い物資を搬送



灯油配達再開

希望・未来

Hope Future

3.11 東日本大震災
悲しみを乗り越えて、
ともに歩もう・・・



お見舞いの品を喜ぶ七ヶ浜町のメンバー

2011.3.11 14:46

その時 共済事業では・・・

震災直後より店舗や共同購入の復旧活動を支援

共済の職員は、震災直後より連日、店舗や共同購入の応援に入り、4月3日まで行政への支援物資の提供や店舗事業の復旧活動を支援し続けました。



コープこうべの応援者と一緒にお見舞い活動



被災地の訪問活動前に地図を確認



コープこうべの応援者と一緒にお見舞い活動



被災地訪問活動前に打合せ

全国の仲間とともに「異常災害見舞金」のお知らせ活動に全力で取り組む

4月4日から全国の生協の応援を得て、5月19日までに17,990人の共済契約者と直接お会いし、全半壊8,651件、一部壊7,248件ものお支払いをすることができました。

2011.3.11 14:46

その時 水事業・学校用品協会では・・・

断水時も休むことなく水を届けました

水工場では、停電で水の製造ができない中、備蓄分や山形から提供を受けた商品を、行政や利用者に提供し続けました。

重要性を実感した水事業

ボトル水は、断水時でも安心して飲める飲料水として、また、ボトル容器自体が断水時の給水道具としての利用価値を発揮しました。

学校用品協会も教材教具を無償提供

学校を通して被災児童生徒へ6月20日現在、約18,000点以上の教材教具をメーカーの協力を得て無償提供しました。また、ユニセフ協会などのNGO支援団体からの学用品の無償提供に協力、被災地区学校に通う児童生徒約7,000人分を学校部職員が届けました。さらに、被災者支援として家庭学習教材はつつぽピーを半年間、無償提供しています。



ボトル水を積み込む職員



気仙沼市面瀬中学校へのユニセフ支援グッズの搬入

2011.3.11 14:46

その時メンバーの活動は・・・

県内エリアで 様々な支援活動を 自主的に取り組みました

多賀城店エリアでは被災した方へ生活用品を支援しようと「おゆずり会」を開催。気仙沼エリアでは埃などから髪を守るための帽子を高齢者に贈りました。この他、避難所での炊き出し、子育てNPOと連携した絵本を集めて贈る取り組みなど多くの支援活動に取り組みました。

宮城県災害VC (ボランティアセンター)へ スタッフを派遣

3月28日から宮城県災害VCへスタッフを派遣し、全国からのボランティア希望の調整などを担いました。また、気仙沼市災害VCからのスタッフ派遣要請にも応えました。

5月18日発足のボランティア委員会



被災した地域でのふれあい喫茶(館腰小学校)



被災者支援募金活動

被災した県民・メンバーの 暮らしの再生を応援する ために、被災者支援募金を 4月4日から開始

店舗への募金箱の設置をはじめ、共同購入では4月3週号・4集合の注文書で募金受付、職員も全職場で取り組みました。メンバー活動でも募金を行い、6月20日時点で募金総額は3,232万円になりました。



5月10日 義援金贈呈の様子

若生副知事に第一次義援金 として、1億5,000万円を 贈呈

日本生協連や全国の生協でも募金活動を行い、6月20日現在、全国の生協から、18億6千万円の募金が寄せられ、生協グループでは28億3千万円になっています。5月10日には、日本生協連の山下会長が宮城県を訪れ、第一次義援金として、1億5千万円を直接贈呈しました。

また、その後も継続的に贈呈を行い、7月5日現在、贈呈総額は8億64百万円となっています。

新しい みやぎ生協 づくり

復興計画

みやぎ生協は今回の震災により、尊い人の命と創立以来築いてきた多くのものを一瞬で失いました。しかしその一方で数え切れない助け合い、人と人とのつながり、深い絆を得ました。大きなマイナスからの再出発ですが、宮城そして東北の一日も早い復興のために

「新しいみやぎ生協づくり」に取り組みます。

- 1.メンバーとくらしと地域の復興に貢献し、「協同」のある地域づくりをすすめます。
- 2.人と人がふれあう機会を多様につくり、自主的でいきいきとしたメンバー活動をすすめます。
- 3.生協事業を早期に再建し、震災前以上の事業・経営体質を作り上げることをめざします。
- 4.生協間の連携をさらに強めます。また、他の協同組合や幅広い県民各層との連携を発展させ、協同組合の理念を地域社会の中に広げます。

01

メンバーが安心してみやぎ生協の商品を利用できる生協づくりを進めています

食品の安全を確保する仕組みをさらに強化しています

食品の安全を確保するために、「食品の安全・安心に関する基本方針」を策定しました

2008年1月に発生した「手作り餃子農薬混入事件」。みやぎ生協は、深く反省をするとともに多くの教訓を学びました。同年3月、新聞広告を通じて県民の皆さんに「食品の安全をもう一度原点から」をお約束し、その後、2009年・2010年とホームページにて取り組みの結果を報告してきました。

あの事件を風化させず、教訓を忘れないために、みやぎ生協は、このお約束を引き継いだ「食品の安全・安心に関する基本方針」を策定しました。これにより、食品の安全・安心の実現について、さらなる強化をめざしていきます。

「みやぎ生協食品安全マネジメントシステム」の運用を開始し、改善を進めています

食品安全マネジメントシステム

従来取り組んできた「みやぎ食の安全安心取り組み宣言」マネジメントシステムを、ISO22000の規格内容を取り入れた「みやぎ生協食品安全マネジメントシステム」にグレードアップして、2010年度から運用を開始しました。

- ① 食品安全方針を実現するために決めた手順が、計画どおり実施されているかを現場で確認します。
- ② 実施されていれば、それは目標との関係で有効であったのかを評価します。
- ③ 上記に加え、内部監査や外部検査（店内衛生点検、手指や検便等）の結果などを加えて全体の結果を分析し、年間の取り組みが有効だったのかを評価します。
- ④ 有効でないと評価された活動は、原因を明らかにして対策を打つことで改善していきます。

みやぎ食の安全安心
取組宣言の表示



商品のラベルの貼り間違いを無くすために

店舗事業では、人体へ被害をもたらす可能性のあるアレルギー物質7品の表示間違いを無くすために、水産・惣菜・寿司の3部門の全職員が手順を学習し、値付けする工程では指差し確認を毎回実施しています。



指差し訓練の様子

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバーの願いの実現を目指します。そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

1. 取引先、生産者、メンバーとコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバーへの供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。
 - (1) 食品の安全マネジメントシステムで、適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みを作り、運用します。
 - (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
 - (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
2. 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
3. メンバーと産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広げます。
4. 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
5. 食に関する学習・体験の活動にメンバーや他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

この食品安全に関する基本方針は、
生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

重大商品事故の兆候を見逃さない 仕組みの運用レベル維持と充実 (商品事故対策室)

重大商品事故の兆候のあるお申し出を管理しています

重大商品事故につながる恐れのあるお申し出を、専門部署を設けて、対応や判断に誤りが無いか、事故の原因と再発防止策がしっかりと行われているかなど、最後までしっかりと監視を行っています。

2010年度も、重篤な人体被害などの重大商品事故に発展した案件はありませんでした。

他の生協と情報を共有する仕組みを生かす

東北6県の生協と商品事故の情報データベースを共有することで、監視や情報発信がレベルアップしました。これを活用し、監視を強化するために、各生協の担当者が集まって学習と交流を重ねています。



常勤理事会メンバーによる「重大商品事故対応訓練」の様子



商品事故対策室

情報発信を行い、業務の改善を進めています

商品事故対策室から定期的に情報発信を行うことで、メンバーに回答するまでの平均日数が短縮されました。農産品などでは、前年にお申し出の多かった商品を予め仕入れ担当者に発信することで、品質の改善にもつなげています。

私たち自身の目で確かめています。(品質管理室・商品検査センター)

メンバーの皆様にご安心してご利用いただくために、食中毒の原因となる各種微生物の検査や産直野菜の残留農薬の検査等を行い、結果を衛生改善や栽培指導に役立てています。

1) 微生物検査は、11,331検体行いました。

分野	共同購入 配達商品	店舗調理 加工商品	店舗一般メーカー商品 (テナント含む)	COOP商品・ コープフーズ東北生産品	取扱事前検査など	総検体数
検体数	1,256	3,342	3,722	517	2,494	11,331

検査結果から、取り扱い停止の対応を行った商品はありませんでした。検査結果は、当該部署に報告し衛生管理の向上に役立てました。

2) 残留農薬検査は、348検体行いました。

分野	産直野菜	産直米	一般品	総検体数
検体数	310	27	11	348

検査結果から、取り扱い停止などの対応を行った商品はありませんでした。検査結果は、当該部署に報告し栽培方法などの指導に役立てました。



微生物検査の様子



残留農薬検査の様子

3) 海外製造加工食品の残留農薬検査

今年度は、共同購入および店舗で取り扱っている海外製造加工食品のうち、リスクに応じた商品の選定を行い、18検体について外部検査機関で実施しました。その結果、全て問題ないことを確認しました。

4) お約束した原材料の確認

COOP商品のうち、お約束した原材料の中で、検査で検証可能な58品目について、外部検査機関で検査を実施しました。その結果、適切に使用されていることを確認いたしました。

顔とくらしの見える産直は、40周年を迎えました

1970

産直とは何か、何を指すのか…
誰もまだ明確な答えを
持っていなかった…

1970年に「安全で美味しいものが欲しい」という消費者の思いと「安定した販売先が欲しい」という生産者の希望から角田との産直が始まりました。その後、野菜の使用農薬や家畜の飼料、米の栽培方法など具体的な施策が行われました。そして「顔とくらしの見える産直」という名前が付けられ、消費者と生産者との交流が盛んに行われるようになり現在に至っています。



産直ふるさと米 稲刈り体験

産直品を満たす「三つの基準」 みやぎ生協の産直生産物は、次の三つの基準を満たしています

01.

産地と生産者が明確であること（「誰」が「どこ」で作ったかがわかること）

02.

生産方法と手段が明確であること（「どのように」作ったかがわかること）

03.

メンバーと生産者の交流がされていること
（共通の願いの実現）

これまでの主な取り組み

01.

ピックアップ産直品として月ごとに重点産直品を決めています

7月度は「産直トマト」のように月ごとに重点産直品を決めて、店舗・共同購入で取組みを強化して取り組んでいます。試食推奨を行ったり、紙面を大きくしたりしています。

02.

産直の豚や鶏に国産の飼料用米を与えています

2010年10月から産直の豚や鶏に国産の飼料用米を与えており、年間約500トン、田んぼの面積にして100ha（クリネックススタジアム約77個分）を活用しています。

03.

新米発売時に生産者とメンバーと一緒に推奨活動をしました

米価が下がり続ける中で2010年の新米が発売されました。1週間にもう一回お米の食事を増やそうと訴え、生産者の農家経営の窮状も伝えながら推奨しました。

04.

田んぼの生きもの調査を生産者と消費者と一緒にを行っています

田んぼの居る昆虫やかえる、魚などの調査を通じて、生物多様性や田んぼの多面的な機能について学びがあります。2010年は田尻、角田、丸森で行いました。

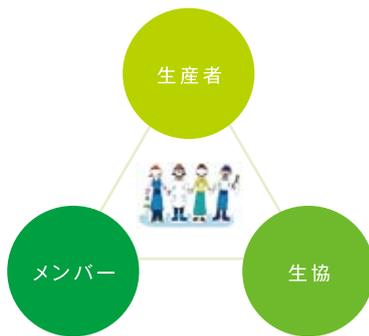
05.

産直組織が各々計画を持って取り組み、実践報告を行っています

生協だけでなく生産者団体も生産目標をはじめ環境目標などを立て取り組んでいます。優秀事例については実践報告を行っていただき学び合っています。



産直交流集会「パネル展」



産直産地研修会

食のみやぎ復興ネットワークの結成

東日本大震災により、多大な被害を受けた宮城県内の農業・漁業関係者や食品関連産業者が、互いに励まし合いながら以下のような取組みを行うことにより、地域の産業復興の一翼を担うことを目的として結成しました。

みやぎ生協と産直構成団体が、このネットワークの先頭に立って取り組んでいます。

各団体・企業が連携をとりながら県内素材の活用方法の検討や、県内素材や地元加工の商品開発を行います。また協力して商品利用を県民に呼びかけるなどの幅広い普及活動を進めます。県内の生産者団体や企業だけでなく、大手メーカーや全国の生協からも加入がありました。復興へ

向けて経営基盤の安定化を目指す生産者や地元メーカーを励まし、地域経済活性化や雇用確保を応援する取組みにつなげます。

結成の呼びかけは宮城県産消提携協議会（38団体）で2011年6月現在、96団体が参加しています。



2011年7月2日「食のみやぎ復興ネットワーク」結成式

宮城県産消提携推進協議会構成組織(敬称略)

【会員】■JAみやぎ仙南■JAみどりの■JAいしのまき■JAあさひな■JAみやぎ登米■JA加美よつば■(株)パールライス宮城■(株)加工連■(株)十文字チキンカンパニー■森永乳業(株)東北支所■(株)仙台水産■雪印メグミルク(株)東北統括支店■宮城県漁業協同組合志津川支所■気仙沼ほてい(株)■(株)志田金■株式会社 宮果■(有)鈴幸水産■仙印(株)■(株)石巻青果■(有)伊豆沼農産■松浦青果(株)■(株)仙台宮水■(株)渡辺水産■岩沼洋菜生産組合■柳生産直会■上岡田ひまわり会■伊達なわたりっこ■古川生産者グループ■秋保大滝産直会■(有)自然菜果おだかファーム■(有)和雄と一郎の農場■(株)鈴力水産■JA全農みやぎ■みやぎ生協

【賛助会員】■MNリテールサービス仙台事業部■全農チキンフーズ(株)東北支店■伊藤ハムミート販売東(株)■(株)JA加美よつばラドファ

産直野菜・米の生産管理の強化

「安心くん」という危機管理と危害低減の取組みを進め

ています。あらかじめ予想できる危害に対して、それを防ぐ作業や状態を作ることを目的にしています。このことでメンバーさんから産直野菜についてのお申し出は年間を通じてもほとんど発生しないようになっています。産直ふるさと米でも生産者の代表が取り組み始めました。

41周年を迎え、新たな産直ブランドの確立

2011年秋、産直ブランドが里のめぐみ、山のめぐみ、海めぐみ、人のめぐみを表現した「めぐみ野」に切り替えます。商品パッケージや演出物なども統一性のあるものに変更しメンバーからの注目度をアップさせます。

2011年の秋から産直ブランドが再デビューし「めぐみ野」となります。豊かなコミュニティ作りのために産直活動を強めて行きます。



メンバーとの交流・学習と 普及・支援活動に取り組みました

2010年度は、「顔とくらしの見える産直」が始まって40周年目になります。「いのちをつなぎ、人をつないで40年」を合言葉にし、産直品の学習や生産者との交流、産直品の利用をすすめました。「初夏と秋のこ〜ぶのつどい」、毎回のこ〜ぶ委員会での学習と、エイブルでの広報を総合的に展開し、産直活動への理解を継続的に広げました。

生産者を支援する募金活動として、「チリ大地震津波被害産直生産者支援募金」2,262,406円、「口蹄疫に立ち向かう畜産関係者を励ます応援募金」2,156,765円を取り組み、生産者を応援する取り組みを実践できました。



チリ大地震津波被害産直生産者支援募金贈呈

米・田植え・稲刈り体験を通して 先人たちの苦労を実感

「産直ふるさと米」は、農薬の使用量を減らした「環境保全米」です。JAみやぎ仙南(角田・丸森)の産直生産者と一緒に田んぼでどろんこになりながらの手作業での田植え体験や田んぼの生き物調査・かかし作り、秋には実った稲穂を手刈りでの稲刈り体験と3回実施し38家族、120名が参加しました。管理、夏の猛暑での草刈作業、稲刈り時期の長雨と生産者の苦労を実感しました。



田んぼの生きもの調査

地産地消のお取引様学習会

初夏と秋のこ〜ぶのつどいでは、いのちをつなぎ、人をつないで40年をテーマに、みやぎ生協の産直活動40周年の歩み、産直品の特徴をお知らせしました。産直生産者・農協職員・地元お取引様の学習会は、71回2,070名が参加して産直品のこだわり、地元生産商品の商品紹介、食べ方などをお知らせすることができました。



岩沼店 秋のこ〜ぶのつどい 産直大豆の学習

産直学習会・学習塾

みやぎ生協では、生産者・メンバー・生協担当者が一緒になって産直品の生産方法・商品の特徴を学習と試食などを通して商品の「良さ」を知ることによって利用に結び付けることを目的に「産直学習塾」を年間28回開催し609名が参加しました。

「商品の比較で産直品の良さ、おいしさが実感できた、生産者の苦労が分かった」との感想が寄せられました。

◆顔とくらしの見える産直に関する詳細はこちらからご覧になれます。 <http://www2.miyagi.coop/sanchoku/>

今までも **これから**も

産直牛乳タオル1本運動

1991年、メンバーと生産者との交流から生まれた「産直牛乳タオル1本運動」。産直牛乳生産者のみなさんは、朝と夕方の毎日2回、搾乳の際にタオルを使います。たくさんのタオルが必要になるため、メンバーにタオルの寄付をお願いしています。2010年度は、鳴子上原酪農牛乳生産者15戸、角田丸森産牛乳生産者5戸に8,361本のタオルをお届けできました。

生産者から「毎年メンバーから届くタオルは、生産者の励みになっています。とても助かり感謝しています。」などのお礼が寄せられました。



鳴子上原酪農組合へタオルを贈呈

食料自給率を高める商品づくりを進めました

2,500人の産直生産者と一緒になって、美味しく安全な産直商品の生産拡大に努めました。東日本大震災の津波被害で稲作が出来なくなった地域の肩代わりで、産直生産者は例年より100ha以上多くの田んぼに作付けしました。

産直商品



産直トマトは完熟に近い状態で収穫

産直トマトの特徴の第一は味が濃いことです。水はやりすぎないようにし、有機質肥料中心の栽培をし、通常の産地では青いうちに収穫することが多いですが産直では木で赤くなってから獲ります。農薬と化学肥料も一般の半分以下に抑えているのも特徴です。

生産者 田尻 木村勝彦さん

震災のためトマトの苗作りのさなかに水と電気が止まりたいへんでした。美味しいトマトを待っているメンバーのことを思い一生懸命努力しました。



産直旬菜市場は、産直のルールにそって生産された野菜などを生産者が規格と価格を決めて出荷しています。産直野菜の直売所的な売場で、季節の野菜をたくさん販売しています。



産直旬菜市場は季節によって出荷される野菜や量が違います。旬に近い野菜が大量に生産される時期には売場が増えます。

店とメンバーと生産者で店ごとに作っている「旬菜市場の会」で試食推奨活動計画や見学会、産直まつりなどを自主的に決めています。推奨を毎月行っている店もあります。



▲COOP産直 函館大沼牛

北海道で育ったホルスタイン種です。エサは自分たちで作った牧草やトウモロコシをふんだんに与えています。また配合飼料にも抗菌剤や成長ホルモンを使用しません。



▲COOP産直 ふるさと豚(ポーク)

黒豚と白豚の交配種で、しっかりした食感とうまみの特徴です。黒豚に近い味を残し、黒豚より安い価格にするために作られました。国産の飼料用米を与えています。



▲COOP産直 みちのく豚(ポーク)

宮城県畜産試験場で開発した「しもふりレッド」種と白豚の交配種です。やわらかく、こくがあるのが特徴です。国産の飼料用米をエサに混ぜて与えています。



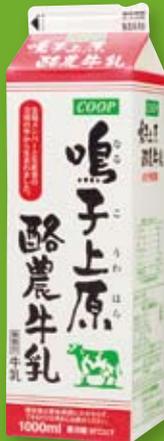
▲COOP産直 若鶏

一般のプロイラーに価格が近く、安全・安心を追求して1990年に開発された産直品です。鶏肉特有の臭みが少なく、しっかりした食感です。国産の飼料用米を与えています。



▲COOP産直 あか鶏

2011年から国産品種の「たつの」に品種を変更し食感は以前より向上しました。肉の繊維質が細かいため弾力がある柔らかな肉質です。国産の飼料用米を与えています。



◀産直鳴子上原酪農牛乳

大崎市鳴子の高原で生産されています。生産者限定の牛乳で美味しさが安定しています。

▶産直 角田丸森産牛乳

角田・丸森地区の限定生産者の牛乳です。エサは生産者が確認しながら与えています。



▲産直三陸塩蔵わかめ

岩手県大船渡で養殖されたわかめです。腰がありしっかりした食感で人気があります。東日本大震災の津波で養殖施設は破壊されましたが生産者は2012年3月の出荷を目指して作業を再開しました。

▼産直蔵王育ち生協のたまご

ピンク色の卵です。蔵王町の6戸の生産者が、毎日約1万5千パックが出荷されています。卵に直接、生産者の番号や賞味期限などが海草から取ったインクで印字されています。鮮度の基準になるハウユニットという卵白の盛り上がり毎日チェックしています。



宮城県産原料を使用した商品



大豆

●COOP
「みやぎ育ち仕込み味噌」
750g 498円

宮城県産大豆と米を1：1の割合で仕込んだ十割とうじみそ。赤穂の天塩仕込み、六ヶ月以上の熟成ですっきりまろやかな味です。



大豆

●COOP
バイオニアース
セレクション
「みやぎ育ち
ゆずぼん酢
しょうゆ」
300ml 398円

宮城県産大豆・小麦を使用した丸大豆しょうゆに、宮城県産の「ゆず果汁」を加え、化学調味料を使わずに仕上げました。



小麦粉
ゆきちから

●COOP
バイオニアース
セレクション
「ゆきちから
小麦粉」
900g
280円

ゆきちからは宮城県が生産奨励している小麦の品種。産直で栽培された「ゆきちから」から、パン、中華麺、餃子の皮等に使える「小麦粉」を作りました。



小麦粉
ゆきちから

●COOP
バイオニアース
セレクション
「ゆきちからの
太うどん」
250g 148円

宮城県産の小麦「ゆきちから」で作りました。コシが強くもちもち感のある乾麺です。



その他

●COOP
バイオニアースセレクション
「みやぎ育ちいちごジャム」
260g 448円

宮城県亶理地区で栽培された生食用いちご（栃乙女）を使ったソフトで果肉たっぷり低糖度のジャムです。



その他

●COOP
バイオニアースセレクション
「みやぎ育ち白石温麺」
100g×3 168円

宮城県の地場商品「白石温麺」を宮城県産小麦を原料に作りました。粉の練り方にこだわり、気泡を抜き、独特の食感（コシ）を出しました。



その他

●COOP
バイオニアース
セレクション
みやぎ育ち
石臼挽き
八割そば
200g
298円

宮城県産原料のそばと小麦で開発しました。そばの実を甘皮ごと石臼で挽きました（挽きぐるみ製法）。そばの香りと甘さが自慢です。



その他

●COOP
バイオニアース
セレクション
「えごま
ドレッシング」
200ml 398円

宮城県色麻町産の「えごま」を使用しました。ベースに有機大豆で作った醤油を使っています。えごまの香ばしさを生かしたドレッシングです。

国産原料を使用した商品



●COOP
バイオニアースセレクション
岩手産野菜ジュース食塩無添加
190g 88円 6缶パック 498円

岩手県産の7種類の野菜をブレンドしました。ベースのトマトはストレートジュースを使用しました（年1シーズンの生産8月）。トマトの香りになるべく抑え、野菜のフレッシュな香りを引き出し、爽やかな野菜感を強調しました。



●COOP
バイオニアースセレクション
「ゆであずき」
210g 188円

北海道十勝産の小豆を白ザラメで炊き上げました。小豆の風味引き立つ、おだやかな甘さが特徴です。

その他部門の商品



●おにぎり

お米は、宮城県産米を100%使用。ひとめぼれとなります。海苔も奥松島産を使用しています。



●みやぎの地梅酒
●みやぎの黒糖地梅酒

角田の「産直梅干し」の梅を使い、三本木の「新澤醸造店」で宮城県産米を100%使用してつくった日本酒で漬け込みました。日本酒本来の甘みがあり、まろやかな味です。

地場素材を活用した商品のいろいろ（紹介している商品には季節限定品も含まれます）

水産	<ul style="list-style-type: none"> ●三陸産生炊きさんま甘露煮 気仙沼で水揚げされた三陸産さんまを使用し生原料から炊き込んだ生炊きの甘露煮。（生原料が使用できる9月末～10月末限定商品です） ●女川産生炊き小女子 三陸沖で漁獲され女川港に水揚げされた新鮮な小女子を、少量つつ手作りで炊き上げています。に煮くずれもなく柔らかい佃煮です。
畜産	<ul style="list-style-type: none"> ●加工連宮城県産直豚肉使用ソーセージ 産直豚（ふるさと豚・みちのく豚込み）の端材・規格外の豚肉を使用したソーセージです。昔ながらの懐かしいシンプルな味付けが特徴です。
デイリー	<ul style="list-style-type: none"> ●仙台長なす 朝もぎ一番 「宮城県産」の長茄子を、「仙台」で加工した地産地消のなすの漬物です。
食品・菓子	<ul style="list-style-type: none"> ●石巻産さきあたりめ 石巻の水揚げされた「するめいか」使用。鮮度の良いうちにすばやく加工。イカ本来の濃い旨みが凝縮され、噛めば噛むほどに味が出てくると好評です。 ●豆乳おからクッキー 社会福祉法人「はらから福祉会」で、県内大豆から作った豆乳を利用したクッキー。

2010年発売のこだわりおすすめ商品

宮城県や東北地方の地場素材を使用した商品づくりを、食品メーカーとの連携のなかで、数多く開発しています。

宮城県は、農・水・畜産物など、豊富な素材の宝庫です。また、豊かな素材を使用した商品づくりを進めている食品メーカーも多数あります。こうした“豊かな素材”と“優れた加工技術”を組み合わせた商品づくりを積極的に推進してきました。売り場では製造したメーカーブランドで発売している商



産直ささのくら(特別純米酒)

大崎市田尻地区で栽培された「産直ふるさと米ささにしき」を使った「特別純米酒産直ささのくら」を発売しました。これは酒造会社の「一ノ蔵」(大崎市)との連携の中、生まれました。2010年1月の限定発売した「特別純米酒しほりたて」の原酒をさらに約6ヶ月間熟成したうえで、「火入れ」と呼ばれ熟処理を行い最終製品化したものです。

産直べにのほほ(焼酎)

角田市で栽培された環境保全米「まなむすめ」を使った米焼酎「産直べにのほほ」を発売しました。原料を米焼酎の本場、熊本の常楽酒造の協力のもので製品化したもの。焼酎造りにあたっては一般的に使われる「白こうじ」では無く「黄こうじ」で仕込んだことから旨み、香りのよい焼酎に仕上がっています。



品のなかにも、生協が仲立ちしたネットワークのなかで作られ出された商品を多数展開しています。

農産、水産、畜産、惣菜、デイリー、加工食品、菓子、酒など各分野で地場素材を活用した商品が多数登場しています。こうした取り組みは、社会的にも注目されマスコミでも幾度となく取り上げられました。

宮城県での栽培に適した納豆専用小粒大豆「すずほのか」を使用

産直大豆で作った「すずほのか小粒納豆」

みやぎ小粒納豆の原料となる大豆を「コスズ」から「すずほのか」に変更しました。

これまでは宮城県内で栽培されていた納豆用大豆は「コスズ」が主流でしたが、近年、新しい品種が開発されたことから大豆を生産している「JAみやぎ仙南小粒大豆生産部会」では、新品種の栽培試験を3年間にわたって行ってきました。その結果、新品種は天候の変化や病害虫にも強く生産量も安定することがわかり、さらに納豆に加工した時には、皮が薄く明るい色調の納豆になり、甘みも強く、食べたときの後味がよいことがわかりました。

産直大豆を使用した納豆は1981年までさかのぼります。当時は納豆用大豆のほとんどが輸入大豆を原料としていました。大豆の産地や栽培方法が明確で、しかも美味しい納豆をと、大豆の栽培から製品化まで角田で行っています。今回の「すずほのか納豆」は、3年間に渡る準備のすえ、メンバーに新しい品種の特徴を伝えるとともに、こーぶ委員会でも名称募集を行うなどメンバーも参加した開発品です。



がんばろう宮城商品

東日本大震災後の商品開発について

東日本大震災による地震および沿岸部をおそった津波は、宮城県の農業・漁業を始め食品産業にも大きな被害をもたらしました。

農林水産業の復興には、生産基盤の整備に加えて輸送、加工、流通、販売、消費者への適切な情報提供などフードチェーン全体を視野に入れた復興プロセスが必要になることから、農林水産資源の担い手と広く食産業に関わる企業による組織として「食のみやぎ復興ネットワーク」が結成され、様々なプロジェクトが活動を開始しています。みやぎ生協も各プロジェクトによる商品開発に積極的に取り組んでいます。

■現在進んでいるプロジェクトから

<仙台白菜プロジェクト>

仙台湾沿岸部で塩害を受けた農地に、塩害に強いとされる仙台白菜を作付け新しい特産品づくりめざす取り組みです。白菜の食べ方提案や様々な加工品作りを計画しています。

02

くらしの見直しの機会を増やし、自主的 いきいきとしたメンバー活動を進めています

生協運営に参加し、世代を越えた輪が広がっています



こ〜ぶのつどい

「こ〜ぶのつどい」では 参加の輪が大きく広がりました

「こ〜ぶのつどい」は、こ〜ぶ委員会が主催して開催するメンバーと生協を結ぶ大切な場です。初夏、秋のつどいとも県内各会場で、まだ生協のメンバーになっていらっしゃらない方にも多数参加いただき、生協の事業や取り組みについて広くお知らせしました。

また、参加したみなさんに楽しく学んでいただく「わいわい」の企画も、産直生産者やお取引先様、行政やNPO、地域の福祉施設などのご協力も得て充実した内容で企画することができました。

総勢3,200名のこ〜ぶ委員が いきいきと活動しています

こ〜ぶ委員はメンバーなら誰でもなれる「生協のサポーター」です。年10回のこ〜ぶ委員会では、生協のさまざまな取り組みについて学習したり、興味や関心のあることを企画して「わいわい」楽しく活動してきました。また、運営の基礎である「はん」のお世話役として、メンバーの声を生協の経営に届けたり、お店や共同購入などの事業を盛り立てる活動にも取り組みました。

◆メンバー活動の詳細はこちらからご覧になれます。
<http://www2.miyagi.coop/member/>

こ〜ぶ委員会の「わいわい」を 支えるお取引先様の協力による 学習会や工場・施設・産地見学

みやぎ生協では、お取引先様の企業にご協力いただき、メンバー対象に幅広く商品学習会や工場・施設・産地見学を実施しております。2010年度も多くのメンバーが参加し、生協で扱っている商品を実際に見て、試して、安全・安心を実感する機会となりました。

2010年度 見学会にご協力いただいたお取引先様(敬称略)

- (株)志田金 ●伊藤ハムデiyリー(株) ●(株)ニチレイフーズ白石工場
- (株)マルハニチロ食品石巻工場 ●(株)八幡屋宮城工場
- 北州食品(株) ●(株)仙台水産 ●(株)八葉水産
- 仙台味噌醤油(株)わさび沢工場 ●みちのくミルク(株)
- (株)千鳥屋製麺所 ●(株)だいく製麺 ●イセ食品(株)色麻PK工場
- 服部コーヒーフーズ(株) ●(株)ノ蔵本社蔵
- 伊藤ハムミートパッカー(株)宮城ミートセンター
- パールライス本社工場 ●日本製紙(株)岩沼工場
- 凸版印刷(株)東北事業部 ●(株)ナリス化粧品
- JA全農みやぎ青果セットセンター

2010年度 学習会にご協力いただいたお取引先様(敬称略)

- 明治屋商事(株) ●サッポロビール(株) ●小川珈琲(株)
- 服部コーヒーフーズ(株) ●UCC上島珈琲(株) ●森永製菓(株)
- 雪印乳業(株) ●明治乳業(株) ●カゴメ(株) ●大塚製薬(株)
- ユウキ食品(株) ●フジッコ(株) ●太子食品工業(株)
- (株)みすずコーポレーション ●旭松食品(株) ●イセ食品(株)
- ヤマナカフーズ(株) ●日清オイリオグループ(株)
- 日本ハム東販売(株) ●石井食品(株) ●エバラ食品(株)
- オタフクソース(株) ●ブルドックソース(株) ●キッコーマン(株)
- ハウス食品(株) ●エスピー食品(株) ●北州食品(株)
- (株)クラブコスメチックス ●明治製菓(株) (健康事業)
- (株)ポッカコーポレーション ●キリンビラレッジ(株)
- (株)ジェイシーコムサ ●(有)マックプランニング ●(株)マルキン
- (株)伊藤園 ●カタギ食品(株) ●グリコ乳業(株) ●サンスター(株)
- (有)趙さんの味 ●(株)マルハニチロ食品 ●カルピス(株)
- 明治製菓(株) (製菓部門) ●三本コーヒー(株) ●井ヶ田製茶(株)
- 味の素冷凍食品(株) ●イートアンド(株) (大阪王将)
- 社会福祉法人はらから福祉会 ●ハラダ製茶(株) ●(株)ヤマダフーズ
- アイリスオーヤマ(株) ●伊那食品工業(株) ●キュービー(株)
- (株)仙台水産 ●双日コスメティックス(株) ●(株)日専連ライフサービス
- 伸栄商事(株) ●日本水産(株) ●ロッテ商事(株)
- 花王カスターマーマーケティング(株) ●(株)ナリス化粧品
- 昭和産業(株) ●アサヒ飲料(株) ●(株)パールエース
- 丸美屋食品工業(株) ●(株)ミツカン ●森永乳業(株)
- 東北電力(株)石巻営業所

こ〜ぶ委員会、メンバーのつどい、はん会

項目	2009年度	2010年度
こ〜ぶ委員会		
委員会の数	357	348
委員人数(人)	3,254	3,177
こ〜ぶのつどい		
初夏のこ〜ぶのつどい参加人数(人)	12,429	12,454
秋のこ〜ぶのつどい参加人数(人)	11,131	13,326
はん会		
紫陽花はん会参加人数(人)	7,610	7,170
秋桜はん会参加人数(人)	7,048	7,393

食の安全と食育、食生活の向上に取り組んでいます



● たべるたいせつセミナー

つどい試食品を活用したメニューの調理とみやぎ生協の「新・食生活提案」を学習する「たべるたいせつセミナー～実践編～」は、試食品を活用したメニューの調理が好評で、提供したレシピは地域のこ～ぶのつどいで広く活用されました。また「学習編」は、「食生活の変化と食の安全・安心」をテーマに開催し、76名のメンバーが参加しました。



● 5ADAY(ファイブアデイ)食育体験ツアー

野菜と果物の摂取の大切さを店舗で学習する5ADAY食育体験ツアーは、今年度も仙台市では教育委員会やみやぎ生協学校部と一緒に呼びかけを行ないました。宮城県内14小学校で32回実施され、970名の児童が参加しました。参加した児童からはたくさんの感謝のおたよりが寄せられました。



● 食のかたりべ

みやぎ生協の食の政策をメンバーが学び、学んだことを他のメンバーに伝える「食のかたりべ」は52名が登録し、こ～ぶのつどいを中心に宮城県内各地で活動しました。食のかたりべが自分でフリップや紙芝居を作るなど、各自が工夫をこらした活動が展開されました。

● お魚がきっと好きになる料理教室・大人のお魚教室

「魚と親しんで魚をもっと食べて欲しい」「お母さん、お父さんにも魚料理を知って欲しい」との思いから、食育NPOおむすび、(株)仙台水産様と協力をし「お魚がきっと好きになる料理教室」を4回、「大人のお魚教室」を2回実施しメンバー129名が参加しました。旬の魚の調理をする事で、宮城の海と水産物、魚食への理解が深まっています。

◆2010年度の開催の様子は右記のURLからご覧ください。 <http://www2.miyagi.coop/member/shokuiku/5aday/list/>

みやぎ生協は子育て世代を応援しています

「こ～ぶ子育てほっとステーション」は、みやぎ生協が取り組む子育て応援活動の名称です。店舗などのメンバー集客室32ヶ所に掲示板を設置し、みやぎ生協だけでなく、行政や他団体の子育て情報をお知らせしています。

子育て中のお母さんが「ほっと一息」つける場所「子育てひろば」は、子ども連れや子育て世代を応援したいメンバーなどの多くのボランティアで運営しています。22会場で開催され、親子1,233組2,711人の参加がありました。

子育て世代のメンバーが編集委員となり、自分たちの興味関心のある内容で作る「子育てふれんずニュース」を発行しています。ニュースを受け取る子育てふれんず会員は2,384名になりました。

マミースタッフ&マミーサポートルーム(石巻蛇田店)

みやぎ生協の企画や行事に子育て世代の参加機会を増やすため、お子さんを預かるマミースタッフ。預かり理由を問わず有料でお子さんを預かるマミーサポートルーム。スタッフの温かい気配りが好評で、安心して子どもを預けられると多くの子育て世代に喜ばれています。

子ども企画(新田東店と名取西店)

「子ども企画」は親子のふれあいだけでなく、ママ同士の出会いの場としても喜ばれています。



子育てふれんず編集委員のみなさん



子育てひろば

人間らしい暮らしと豊かな地域づくり運動を推進しています

こ～ぶくらしの助け合いの会

メンバーどうし「困った時はおたがいに助け合いましょう」と活動を続ける「こ～ぶくらしの助け合いの会」は2010年9月で25周年を迎えました。

設立当初は会員が83人、活動時間が528時間でしたが、2011年3月現在、利用会員は1,477人、活動会員は874人、賛助会員380人、活動時間は37,487時間となり、高齢者世帯や子育て世帯からの期待がますます高まり、毎年のように活動時間の最多更新が続いています。

活動は、高齢者世帯への家事支援が多くなっていますが、産前・産後のお手伝い、父子家庭での子どもの見守りなど子育て家庭支援の依頼も増加しています。また、高齢者や障がいのある方の話し相手・外出支援など活動は多岐にわたっています。

一方、活動の増加に伴い、助け合いの会で対応が難しい依頼も増えていますが、地域のNPOや福祉活動を行う人々と連携をしながら、困っている方へ支援が届くようにしています。



留学生家族の産後の見守り活動



日中、一人で過ごす利用会員へ男性の活動会員が将棋の相手をしました。

こ～ぶくらしの助け合いとは

誰もが住み慣れたまちで暮らしていくために、日常のちょっとした困りごとをメンバーどうしお互いに助け合いましょうと1987年に設立されました。

活動は「やってあげる」「やってもらう」関係ではなく、お互いに対等な立場にたち、利用会員の援助してもらおう気持ちの負担を軽くするために有償で行います。

みやぎ生協のメンバーであれば、誰でも会員になることができます。入会時には1,000円と、翌年以降は年会費として1,000円必要です。

ふれあい活動

■「福祉まつり」が、福祉共同作業施設とメンバー・地域住民との交流を目的に、塩釜杉の入店、亶理店、東松島メンバー集会室、こ～ぶのお家緑ヶ丘の4会場で開催され、メンバーとボランティアなど959人が参加しました。

■高齢者と一緒に楽しいひとときを過ごす「ふれあいお食事会」は、桜ヶ丘店、松島店、セラピ白石店で開催され、475人の高齢者と292人のボランティアが参加しました。

■気軽にお茶を飲みながら交流する「ふれあいお茶会」は、6会場で374人のメンバーが参加しました。

■福祉共同作業施設へのメンバーの見学は12回行われ、213人が参加しました。

■産直まつりなどへの福祉共同作業施設の出店は21会場で、のべ28施設となりました。



ふれあいお食事会(松島店)



福祉まつり(塩釜杉の入店)



ふれあいお茶会(鶴ヶ谷店)の様子

こ～ぶふれあい便

高齢や体が不自由な方、家族の介護や産前産後、子育て中などで買い物に行きたくともいけない方のために、食料品や生活必需品をお届けし、日常の生活を支援しています。現在10店舗で実施しており、153名の会員が利用しています。



スタッフと注文の確認

実施店：
西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、
富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、
六丁の目店、鶴ヶ谷店、柳生店、
八木山店

メンバーの豊かなくらしと安全に取り組んでいます

地域の小学生とのふれあい

「環境を守る」をテーマにした小学4年生の授業に支部長が講師として参加しました。共同購入の配達時にもらった小学生からの手紙(牛乳パックリサイクルへの質問)がきっかけでしたが、牛乳パックのリサイクルや生協が取り組んでいる環境保護の活動を子供たちにお話しました。子供たちと一緒に「環境」を考える一場面になりました。



小学生とのふれあいの様子

買い物サポート

買い物付き添いを希望されるメンバーが、気軽に意思表示できるよう1995年に開店した岩沼店以降に出店

した店舗には「ハートビル法」に適合した店舗の入口に買物サポート用のインターフォンを設置しています。

一人暮らし高齢者の個配メールサービスが喜ばれています

個配メールサービスは、一人暮らしの高齢者を中心に312人まで登録者が増えました。離れて暮らすご家族からは、「個人宅配で買い物の心配もないし、毎週届くメールで元気に暮らしている様子もわかり助かります」と喜ばれています。

認知症サポーター講座

高齢化が進む中で、基本的な知識と適切な対応技術を得るため、2008年度より「認知症サポーター養成講座」を開催しています。これまでにキャラバンメイトは51名、認知症サポーターは705名と、合計で756名の職員が養成講座を受講しています。いつでもメンバーのみなさんや家族の方々が安心してご利用できる店舗を目指しています。

学校・先生方に役立つ情報提供 「COOP授業に役立つ学習ガイド」

学校部では、みやぎ生協で行っている、環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』にまとめて掲載し、県内全小・中各学校へお届けし情報を提供しています。



ビデオ貸出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先工場見学、生協事業所職場体験等の受入など

職場体験・見学の受入

職場体験実習・見学は店舗を中心に共同購入・学校部・ディサービスセンター・産直コースなどを設定しています。2010年度は職場体験・実習(103校)、職場見学(14校)、食育体験店舗ツアー(14校34回)などの受入を行っています。

●施設見学・体験学習・職場体験のお申し込み手順

学校部受付【FAX】

研修受入窓口(人事教育部教育担当)

各事業所責任者に受入要請

研修先が決定

人事教育部から申込みいただいた学校の責任者の方へ連絡

学校教育に役立てられている 宮城県学校用品協会の教育助成制度

みやぎ生協子会社の宮城県学校用品協会では「小中学校の教育実践活動への助成を通じ、宮城県内の学校教育の進展に寄与する」ことを目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から「教育助成」を行い、さまざまな教育研究活動や授業に役立てられています。



教育助成交付式の様子

平和とよりよき生活のために

平和活動

核不拡散条約(NPT)再検討会議

5月にニューヨークで開かれた核不拡散条約(NPT)再検討会議に地域代表理事2人を派遣し、メンバーの核兵器廃絶の想いを届けました。現地では宮城県からの被爆者2人とグループで行動し、国連での原爆パネル展会場での証言やブライアクリフ中学校、第218中学校での証言活動をサポートしました。



5月2日、NGO共同集会・ピースパレード



ブライアクリフ中学校で証言する宮城県からの被爆者(早坂博さんと木村耕紗子さん)

また、元日本生協連会長・竹本成徳さんの被爆体験を描いた「さいごのトマト(書籍)」が子ども向けに再刊されたのを機会に、多くの方に被爆の実相を伝える取り組みとして、県内の公立図書館44箇所、市民文庫28箇所にて131冊寄贈し、メンバー、職員の購入と合わせて610冊普及しました。

12月9日には著者の竹本成徳さんをお呼びし、「『なくすのは いま』～核兵器のない世界へ～ヒロシマを私自身のことばで」と題した講演会を開催しました。



利府町図書館へ「さいごのトマト」の寄贈



自身の体験を語る「さいごのトマト」著者竹本成徳さん

ヒロシマ平和行動と「さいごのトマト」の普及

メンバーの募金による「ヒロシマ平和行動」(親子5組)、「沖縄戦跡基地めぐり」(一般コース5人)に代表を派遣し、報告会を開催しました。



「平和祈念式」に参加



沖縄平和祈念資料館の前で

「被爆ピアノ」コンサート

『響け! 平和の音色 被爆ピアノチャリティコンサートin仙台尚綱学院』を宮城県生協連などと共催し、8月22日に開催しました。会場の礼拝堂には450名が参加し、目標を大きく上回る415,991円の募金が寄せられました。9月17日国連本部にて計画通りコンサートが開催されました。



※被爆ピアノ
広島・長崎に原子爆弾が投下された時に、原爆の被害を受けたピアノ
被爆ピアノを演奏する
小川裕也先生

今までも これからも

県内各地で開かれている平和の取り組み

1985年から始まった「仙台平和のつどい」。仙台のこ〜ぶ委員会が中心となり、大きな催しをしたり、エリア単位で学習会を開催したりとスタイルは変えながらも平和の大切さを伝える活動を継続しています。内容は講演会や紙芝居、平和七夕、パネル展「原爆と人間展」「沖縄戦と基地」などがあり、メンバーがより参加しやすい形を追求しています。今年は11ヶ所で行われ、合計458人(見学者を除く)が参加しました。

仙台市以外の地域でも平和の取り組みが進められています。今年は沖縄戦跡基地めぐり・ヒロシマ平和行動報告会や原爆パネル展などが開催されました。



仙台平和のつどい(八木山店集会室)



パネル展「原爆と人間展」(志津川公民館)

くらしの見直しと消費者被害を防ぐために

「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城」への参加

「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城」とともに、街角行動や学習会に参加しました。

街角行動は、4月1日と6月19日、フォーラス前をメイン会場にみやぎ生協店舗でも行われ、消費税率引き上げについてシール投票などのアピール活動を行いました。

6月の総会は新里宏二氏(仙台弁護士会会長)、2月の緊急学習は日野秀逸氏(東北大学名誉教授)を講師に開催し、多くのメンバーが参加しました。「これ以上消費税率を引き上げることは、ますます景気が冷え込み、経済は活性化しない。現在の社会状況を踏まえるなら、法人税や高額所得者の減税をやめ、本来の税制に戻すべき」というお話は、消費税率引き上げに反論する下地となる有意義なものでした。



記念講演会

家計・保険・社会保障の学習

共済センターとの連携で「くらしの見直し学習会入門篇」を8会場で開催しました。「源泉徴収票からわが家の数字をつかみ、将来のくらしに必要なお金を知る方法」と「わたしたちのくらしを守る社会保険を知った上で、私的保障はどのくらい必要か」を学習しました。

また、小学生を対象にした「おこづかいゲーム」を6会場開催し、楽しくお金のことを学ぶ機会を作りました。



くらしの見直し学習会

新しい消費者行政をつくる宮城ネットワーク

県内の消費者団体とのネットワークを通して、地方消費者行政の充実・強化を求めて情報交換・意見表明を行う活動です。国への意見提出や、宮城県や市町村への相談窓口充実について要請行動を行いました。

消費者力向上の取り組み

メンバーの消費者力アップのため「高齢者の見守り」「地デジ」「製品事故防止」「金融商品のトラブル」について連続講座を開催しました。

宮城県と仙台市の消費生活基本計画中間案へのパブリックコメント募集に対し、宮城県へ112名、仙台市へ92名が意見提出を行いました。

県内4ヶ所で消費者力検定を実施し、事前対策講座を受講しながら40名が受験しました。



消費者力アップの連続講座



パブリックコメントの取組み

「消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ」

「食の安全行政をすすめる懇談会みやぎ」に消費者行政部門を設け「消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ」が発足しました。食品安全行政部会では「遺伝子組換え米の栽培実験圃場」の見学会、消費者行政部会では加藤さゆり消費者庁参事官による「消費者被害を未然に防止するために」の学習会を行いました。両部会ともに、宮城県・仙台市への意見提出を行いました。

今までも これからも

安心できるくらしを、メンバーと共に

みやぎ生協では、身近なくらしの問題に関心を持ち、将来を見据えたくらしを実践するメンバーを増やすために、共済センターのライフプランアドバイザー(LPA)と連携し、ライフステージにあわせた家計学習会を開催しています。この共済センターとメンバー活動が連携した取り組みが、全国のライフプランアドバイザー交流会で評価され、2009年度「くらし見直し講演会メンバー動員数第一位」「金銭教育参加人数第一位」の表彰を受けました。

また、宮城県生協連が実施する家計モニター活動への参加を通して、家計調査から見えるわたしたちの厳しいくらしの状況を発信し、くらしを守る様々な運動につなげています。さらに、近年増加する消費者被害を防ぐだけでなく、自らの消費者力(※)を高め、行動できるメンバーを増やす取り組みを先進的に進めていきます。

(※)消費者力:消費生活について正しい知識を持ち、生活しよず=かしこい消費者になるために必要な能力だけでなく、商品・サービスの価値などを主体的に判断し購入・利用する能力、トラブル時に対応できるような能力、消費者視点で意見を表明できる能力などとして用います。

地域社会への貢献・国際協力活動を進めています

行政・地域・諸団体との活動を深めました

「NPO法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ」の活動

「介護ネットみやぎ」は2012年の介護保険改定が、よりよいものになるために積極的に活動しています。「2010年度ケアマネジャーアンケート」から、2010年12月9日「介護保険制度の改善に向けた提言」を取りまとめ、提言を実現する活動の一環として「介護保険制度の改善にむけ国への意見書提出を求める陳情書」を宮城県議会に提出しました。「介護サービス情報の公表」の調査機関として、介護保険事業所の訪問調査を740ヶ所、「地域密着型サービス外部評価」の評価機関として宮城県より選定され、11ヶ所の外部評価を行いました。



情報の公表調査員研修

NPOとの協同の取組み

福祉施設や路上生活者支援施設などへ余剰食品を無償提供する「NPO法人ふうどばんく東北AGAIN(あがいん)」へ、専任事務局員の派遣など支援を進めました。また、県内のNPO活動を支援する「NPO法人せんだいみやぎNPOセンター」の評議員としての参加や、メンバーが主体となって活動している子育てや食育のNPOとの協同の取組みなど、多様な方々とともによりよい地域社会づくりを進めています。



ふうどばんく活動のしくみ

知的クラスターとの連携、健康サービスの取組み

みやぎ生協では、先進予防型健康社会創成仙台クラスターと共同で、生協メンバーをはじめとする地域住民の健康づくりを行っています。メンバーを対象とした「ノルディックウォーキングで楽しい運動」での運動習慣づくりや、「健康度チェックPlus」では通常の特健診では得ることの出来ない健康情報を参加者にお知らせしています。2011年は取組の中から作られた健康度評価尺度や開発機器を使ったプログラムを、職員の健康づくり月間の中でも実施していく予定です。

仙台市と提携して行う、ガン検診の取組み

みやぎ生協は、平成23年1月27日、民間企業等10社とともに仙台市と「がん予防啓発・がん検診受診率向上のための取組みの連携に関する協定」を締結しました。がんの予防、早期発見及び早期治療推進のため、店舗などでの啓発活動、広く市民へ情報発信を行うことが目的です。

行政への各種委員の就任

みやぎ生協は、行政などの要請により、審議会や協議会の委員として、多くの役職員・メンバーが就任、活動しています。

- 大崎市環境審議委員
- みやぎボランティア総合センター運営委員
- 仙台市におけるチャレンジ25地域づくり事業「検討会」委員
- 宮城県自然環境保全審議委員会委員
- 宮城県民間非営利活動拠点施設指定管理者選定委員会委員
- 白石市食育推進協議会委員
- 宮城県卸売市場審議会委員
- 宮城県米需給検討委員会委員
- 社会福祉法人なのはな会評議員
- 「食育」活動表彰審査会委員
- 気仙沼市総合計画審議会

ふれあい製品のお店 「はあと」の支援

セラビ幸町店にあるふれあい製品のお店「はあと」は、「仙台市障害者販売業務訓練等事業」を行う場所の一つです。福祉施設で作られた製品の展示・販売が行われ、障害のある方が店舗での販売・接客を通して一般就労に向けた経験を積み、社会体験や人間関係など視野を広げる機会となっています。店舗ブースの無償提供と、年間のべ310人がボランティアとして協力し、訓練事業を支援しています。

県内各団体との連携～祭り等への参加～

みやぎ生協は、仙台市や各地区の祭りに参加しています。



どんと祭(裸まいり)



よしこの塩釜踊り



気仙沼はまらいんや踊り



青葉祭り

防災活動

仙台市と災害救援物資に係る 一定量確保業務の業務委託契約を 締結しました

2010年4月1日、仙台市と「災害救援物資に係る一定量確保業務」の業務委託契約を締結しました。契



仙台市流通在庫備蓄方式

約の趣旨は、災害の避難所生活において女性の視点に立った備蓄物資の拡充整備を行うため、幼児紙オムツ・大人紙オムツ・生理用ナプキンなど仙台市が購入、保管・配送についてみやぎ生協に委託するというものです。

気仙沼市と応急生活物資の 供給協定を締結しました

2010年4月25日、気仙沼市と「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結しまし



気仙沼市物資協定締結式

た。みやぎ生協の県内自治体との災害時の物資供給協定は、22自治体となりました。

■ 応急生活物資供給協定締結自治体 2011年7月現在

- 仙台市 ○塩竈市 ○多賀城市 ○松島町 ○七ヶ浜町 ○利府町
- 大和町 ○大郷町 ○富谷町 ○大衡村 ○宮城県 ○名取市
- 岩沼市 ○亘理町 ○山元町 ○石巻市 ○大崎市 ○登米市
- 東松島市 ○白石市 ○加美町 ○南三陸町

自治体の防災訓練に参加しました

みやぎ生協は自治体が開催する地域の防災訓練に積極的に参加しています。



宮城県総合防災訓練

また、みやぎ生協は社団法人「仙台市防災安全協会」泉地区の運営委員として、災害対応研修会や仙台市出初式、総会・運営委員会等に参加、地域の防災活動の一役を担っています。

2010年	訓練内容
6/6(日)	白石市総合防災訓練
6/12(土)	仙台市総合防災訓練
6/13(日)	塩釜市総合防災訓練
6/13(日)	多賀城市総合防災訓練
9/1(水)	宮城県総合防災訓練
9/14(火)	仙台市防災安全協会泉地区災害対応研修会

各種表彰、助成・募金活動

こ〜ぶほっとわ〜く基金 2010年度助成

2010年度は、27団体に436万円の助成を行いました。これまでの助成累計は319団体5,993万5,950円になりました。



こ〜ぶほっとわ〜く基金贈呈式

こ〜ぶほっとわ〜く基金助成団体一覧

2010年度上期 助成数:18団体 助成金286万円

1	点訳グループ「てんとうむし」	10	宮城県難聴児を持つ親の会
2	障害者社会参加劇団 劇団ファットブルーム	11	介護者応援ネットワークみやぎ
3	フラワーセラピー研究会仙台	12	障害者サポートグループ「ぼん工房 豆豆(とと)」
4	特定非営利活動法人 輝らら会 放課後ケア いちばん星☆	13	東北文化学園大学 ボランティアサークル Blue Sky
5	特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク	14	NPO法人 日本ホスピタル・クラウン協会
6	特定非営利活動法人 チャイルドラインみやぎ	15	特定非営利活動法人 自閉症ピアリングセンターここねっと
7	心のネットワークみやぎ	16	地域総合研究会
8	特定非営利活動法人 ロージーベル	17	高砂もりあげ隊
9	特定非営利活動法人 しはた子育て支援ゆるりん	18	特定非営利活動法人 ネットワークオレンジ

2010年度下期 助成数:9団体 助成金150万円

1	日本網膜色素変性症協会 宮城県支部	6	特定非営利活動法人 せんだい社の子ども劇場
2	NPO おでえーらに(任意団体)	7	「スター・ヘアレンティングみやぎ」準備会
3	特定非営利活動法人 ワンファミリー仙台	8	特定非営利活動法人 ほっぶの森
4	特定非営利活動法人 宮城県重症心身障害児・者を支援する会	9	CAPみやぎ
5	みやぎ表現者Net. 杜の星座		

今までも これからも

こ〜ぶほっとわ〜く基金

1992年、みやぎ生協設立10周年を記念して創設されました。5億円の果実(利子)に相当する金額を、年に2回、宮城県内で地域福祉向上のために活動している団体や個人を支援・育成するために助成しています。助成対象となるのは、高齢者、障がい者、児童のための次のような非営利活動です。

- 1) 生活を支援する活動、2) 支援施設づくり(改装、備品の購入を含む)、3) 住みよい社会をつくるための調査・研究活動、4) 住みよい社会をつくるための交流集会、研究会、シンポジウムの開催および活動記録の作成、5) その他、上記の目的を達成するために必要な事業

社会福祉協議会表彰など



■宮城県
社会福祉協議会
ボランティア
功労賞

高橋 信代
こ〜ぶくらしの助け合いの会
コーディネーター



■仙台市
社会福祉協議会長
感謝状

工藤 悦子
こ〜ぶくらしの助け合いの会相談員

こ〜ぶくらしの助け合いの会活動をはじめとする福祉活動の功績に対して、平成22年度の宮城県社会福祉協議会ボランティア功労賞、および仙台市社会福祉協議会会長感謝状を受賞しました。

募金

チリ地震津波募金

金額 2,262,406円 贈呈日 2010年4月 9日

パキスタン洪水緊急募金

金額 500,000円 贈呈日 2010年9月15日

口蹄疫募金

金額 2,156,765円 贈呈日 2010年7月15日

国際協力・ユニセフ支援活動

ICAアジア太平洋地域 生活協同組合研修生を受け入れ

アジアの各生協で店長やバイヤーとして活躍している方々を、1週間、研修生として受け入れました。インド2名、フィリピン1名、シンガポール1名の合計4名です。研修生は店舗事業政策を中心に学び、最終日には母国で実践したいことを発表しました。1994年度からこれまでに58名の研修生を受け入れています。



南光台店での実習

国際協力の取り組み

「フェアトレード」は、メンバーの利用を通してできる身近な国際協力活動で、みやぎ生協では1999年より共同購入チラシで取扱いをしています。そのチラシで扱う商品をメンバーの視点で検討する「見て・聞いて・参加して～フェアトレード商品検討会」を10月15日、富沢店で開催しました。



フェアトレード検討会の様子

参加者からは「フェアトレードについて理解できた。自分たちができる小さな国際協力として購入者が増えるといいと思います。」などの感想が寄せられました。また、2010年度は新たに、国際協力NGOの特定非営利活動法人「ハンガー・フリー・ワールド(HFW)」と連携し、未使用切手や商品券、ゲームソフトやCDなどを回収・換金し、その金額を募金

することで、4つの開発途上国(バングラデシュ、ウガンダ、ベナン、ブルキナファソ)の人々の自立を支援するHFWの活動に協力しています。

ユニセフ・パネル展～店舗リレー～

「立ち上がる女性たち ～忘れられた国・ソマリア」

アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が実際に見たソマリアの女性や子どもたちの現状を伝えるパネル展を、9月22日～10月31日、みやぎ生協文化会館ウィズ、白石店、加賀野店、愛子店、柳生店でリレー開催しました。

ソマリアの女性と共に
©日本ユニセフ協会/2010/Kaneko

ユニセフ・パネル展

■2010年度ユニセフ募金額

(単位:円)

メンバーからの一般募金	6,441,104
お取引先様キャンペーン募金	1,091,065
牛乳パック回収による募金	2,620,767
ペットボトルキャップ回収による募金	63,997
ハイチ緊急募金	4,500
合計	10,221,433

■ユニセフキャンペーン募金にご協力いただいたお取引先 2010年4月～2011年3月

(2010年度88社 順不同・敬称略)

(株)富島食品、(株)志田金、(株)仙水デイリー、一正蒲鉾(株)、グリコ栄養食品(株)、銀河フーズ(株)、伊藤ハムデイリー(株)、プリマハム(株)、丸大食品(株)、日本ハム東販売(株)、日本水産(株)、(株)ヤマダフーズ、(株)関越物産、(株)ニチレイフーズ、(株)マルハニチロ、イトランド(株)、森永乳業(株)、明治乳業(株)、雪印乳業(株)、日本ミルクコミュニティ(株)、日本製粉(株)、理研ビタミン(株)、エスピー食品(株)、ヤマキ(株)、国分(株)、キュービー(株)、カゴメ(株)、(株)はくばく、(株)高砂長寿味噌本舗、(株)永谷園、(株)えひめ飲料、ジェイティ飲料(株)、サッポロ飲料(株)、日本ケロッグ(株)、ロッテ商事(株)、カバヤ食品(株)、亀田製菓(株)、クラシエフーズ販売(株)、(株)サンエス、(株)不二家、UHA味覚糖(株)、(株)てん六、ヤマザキナビスコ(株)、仙台ココロラボトリング(株)、明治製菓(株)、カンロ(株)、クラシエホームプロダクツ販売(株)、ライオン(株)、コーセーコスメポート(株)、J-NET(株)、(株)マンダム、大王製紙(株)、エステー(株)、(株)友人、日清ベトフード(株)、(株)あらた、(株)TTS、(株)クレハ、大鵬薬品工業(株)、アサヒフード&ヘルスクエア(株)、小山産業(株)、住商フルーツ(株)、ハイナン食品(株)、東洋水産(株)、(株)ミツカン、ヤマザシ醤油(株)、(株)白子、ニコニコのり(株)、エバラ食品工業(株)、カルビー(株)、岩塚製菓(株)、大塚食品(株)、ネスレ日本(株)、日本クラフトフーズ(株)、UCC上島珈琲(株)、日本生活協同組合連合会、ユニ・チャーム(株)、(株)バスクリン、アース製薬(株)

◆ユニセフに関する詳細はこちらからご覧になれます。<http://www2.miyagi.coop/member/unicef/>

「今までも これからも ユニセフ活動」

ユニセフ(国際連合児童基金)は、世界の子どもの命と健康を守るために活動する国連機関です。その活動は「平和と暮らしを守る」という生協の基本理念に一致することから全国の生協で取り組まれており、みやぎ生協では1979年よりユニセフ活動を支援しています。2010年度は、こ～ぶ委員会を中心に多くのメンバーからの募金協力がありました。48全店舗での「ハンド・イン・ハンド」(募金活動)や、店舗や共同購入地域でのメンバーまつり等でのユニセフ支援活動が旺盛に取り組まれました。キャンペーン募金への協賛企業が増加し、継続的にご協力いただきました。



ユニセフ・ハンド・イン・ハンド

03

メンバーひとりひとりの生活に役立つ 生協づくりを進めています

一人でも多くの方に安心してご利用いただけるように



店内の様子

県内46店舗で営業、
食とくらしを豊かで便利にする
商品やサービスを提供しています

「食の安全」の確保や食料自給率向上に向け、「地産地消の日」の実施や「産直旬菜市场」の強化など、産直品・国内産商品・コープ商品の利用拡大に取り組んでいます。

また「いいコープの日」「ワンデービッグバーゲン」「どんどんたまるスタンプキャンペーン」「シニアメンバーデー」などメンバーのくらしを支える企画も実施しています。

確かな品質をお求めやすく
コープベーシック

くらしに欠かせない「ベーシック」な商品を「確かな品質」で「お求めやすく」お届けするシリーズです。コープはこれからも「安全性・品質・低価格」を基本コンセプトにメンバーの普段のくらしを応援していきます。



コープベーシックの商品

高齢者支援として
「シニアメンバーデー」の登録者が
4万人を超え、たくさんの支持を
得ています

65歳以上の高齢者支援として立ち上げたシニアメンバーデーは、10年度から毎週木曜日の開催に変更しわかりやすくしました。登録者は10年度で1万5千名増加し、現在4万7千名まで拡大し支持が広がっています。

「耳」マークへの対応

聴覚に障害をお持ちの方が安心してご利用できるよう店舗レジチーフと本部職員向けに「日常のあいさつや簡単な会話」の手話を学習しております。

今後は全店のレジチーフや受付職員向けの学習を進め、より一層コミュニケーションが図れるようにしていきます。



耳マーク

コープポイントが暮らしを
お得にいきいきさせています

お買物金額300円毎に1ポイントを付与するコープポイントが人気です。週末(土・日)には、2000円以上のお買上げでポイントが3倍または5倍になるお得なサービスも実施しています。



コープポイントマーク

◆詳しくは、みやぎ生協HP「生協のお店」のページをご覧ください。
<http://www2.miyagi.coop/shop/>

エコポイントの交換を「COOP商品券」に交換できるようにしました



毎週12万2千人の方が 共同購入を利用しています

2010年3月に電話注文センターを開設しサービスの向上を図りました。8月に老朽化した石巻支部を拡大移転し利用者拡大を進めました。9月にはパソコンの画面上にカタログを表示する「Webカタログ」を開発し、希望商品をクリックで注文できるようにしました。介護でお買い物にいけない方への介護個配手数料優遇サービスを開始しました。簡単・便利で利用しやすい共同購入の仕組みづくりが前進しました。

食料自給率向上と環境保全を めざす商品づくり

食料自給率の向上と環境保全を目的として、「産直豚」「産直鶏」に加え、同じく飼料用米を5%配合した餌で育てた「奥州豚」も開発し供給しました。これらの飼料用米で育てた商品には「みんなで利用結集!」というキャッチコピーをつけ、利用することで美しい東北伝統の水田風景を守ることにもつながると呼びかけ、供給高で2億円(供給構成比約18.2%)を越える利用がありました。



奥州豚

「Week」などの商品企画を 充実させ、メンバーの支持を 集めました

- ①「東北育ち」(注1)、「産直品」、「もったいない企画」などの取り扱いを充実させました。「東北育ち」は597品目の登録となり、2009年度に比べて4.3倍に増えました。
- ②「いつでも利用できる商品企画や幅広い商品企画」をWeekやeフレンズの売り場で企画し、取扱商品数を拡大しました。具体的には香辛料、ケース売り商品、アレルギー対応商品、ベビーフードなどを充実させました。
- ③サンネット産直(注2)の提携先との協同の取り組みが進みました。みかん産地での宮城のカキ殻の活用など、環境にも配慮した事例も生まれました。

注1:東北内で収穫された商品や原材料を使用して生産された加工食品で、サンネット事業連合の特色商品。

注2:東北各生協の産直の枠組みを踏まえた上で、東北地方内の生産地は原則として各県の産直活動として取り組むことを前提に、全国各地の生産者を対象とした産直。

住宅エコポイントの学習会で 省エネを推進しました

2010年度、委員会やメンバーのつどいで、住まいのリフォームに関する出張講座を開催し、10会場300名ほどのメンバーさんに参加いただきました。

講座内容は屋根・外壁や水廻りなどお住まいのメンテナンスの仕方に加え、住宅版エコポイント制度についての説明も取り入れ、参加者には興味を持って聞いていただけました。

どの会場でも参加したメンバーさんからは「ためになった」と喜ばれました。

二重サッシや断熱など省エネエコリフォームといわれる工事は、2010年度に265件実施しました。



住宅エコポイントの学習会

こーぶ福祉会

後援会・ボランティア、そして地域の皆様と一緒に…

高齢者とそのご家族の皆様を
笑顔でサポートしています。

6月14日、仙台地域で初めて店舗(みやぎ生協桜ヶ丘店)に桜ヶ丘地域包括センターを設置しました。地域の方が気軽に訪れるようになり、相談が増えています。いしのみぎ、緑ヶ丘、桜ヶ丘の3か所でデイサービスセンター、ヘルパーステーション、居宅介護施設、八乙女に居宅介護施設と福祉用具、桜ヶ丘に訪問看護ステーションをそれぞれ設置しています。デイサービスセンターは1ヶ月平均1,850名が利用し、のべ238名のボランティアがデイサービスセンターやこーぶ福祉会の活動を支えています。1月現在の後援会員は161名です。

こーぶ福祉会設立から10年が経過し、その歩み記念誌「笑顔のリレー」にまとめ、発刊し、みやぎ生協が設立したこーぶ福祉会の理念を職員や関係するメンバーで学習、共有しています。



笑顔のリレー

学校や先生方を
サポートする取り組み

学校教材販売事業

みやぎ生協100%出資の宮城県学校用品協会の学販部門は、県内すべての学校で使用される教材教具、備品、体育着などを取り扱っています。「よりよい教材をより安く」というテーマのもと、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、児童生徒に役立つ、先生にとって指



学校用品協会後援の県書初め展

導しやすい教材の提供をモットーにしています。また、各小中学校教科研究会の編集、発行している出版物・図書の編集、販売支援をしています。代表的なものとしては、小中書写研究会の書初め手本作成印刷、書初め展開催や仙台市小中学校教科研究会編集発行の夏休み帳などがあります。

こ～ぷ家庭教育センター

子どもたちの学力向上を支援するために、幼児～中学生までの家庭学習教材、学習教室、英会話教室事業を行っています。



新学社「ポピー」・日本標準「はつらつ」

安心・安全、そして快適な商品をお届けしています

アクアクララみやぎ生協



環境にやさしいリターナブルボトルの使用済ボトルは回収して繰り返し使用しますので、家庭ゴミも出さずエコロジーに優れています。宮城県沖地震等の大きな災害時には、災害用備蓄水としてご利用いただけます。



アクアクララみやぎ生協自社工場

コープトラベル

生協らしい旅行を企画いたします。2010年サンネット共同購入商品本部とタイアップして北海道の産直農園である矢澤農園へ東北各地のメンバーさんと交流活動を行いました。これからも生産者と消費者が交流できるツアーを企画していきます。



北海道矢澤農園での交流活動

働きやすい職場づくりに取り組んでいます

子育てしやすい職場づくりをしています

みやぎ生協の事業は、職員の77%を占める女性職員に支えられています。

就業形態に関わりなく、男女ともに子育てや介護をしながらもキャリアアップして働き続けられるように、育児休業・介護休業などの諸制度を整え、職員の育成をめざしてきました。

また、所定外労働の削減に努めながら、仕事と家庭生活が両立できる職場環境づくりのために、厚生労働省の次世代育成支援対策推進法の第2期行動計画に基づき、短時間勤務制度や子の看護休暇、介護休暇などより充実した制度の拡大を進めています。



障がい者雇用の拡大

2010年度は、43名の方の職場実習を受け入れました。現在35名の障がい者（平均年齢32歳、平均勤続年数8年）が本部の事務作業、リサイクルセンターの選別作業、店舗の加工や品出し作業、加工センターの加工・パッケージ作業に従事しています。障がい者雇用率は1.93%（2011年4月20日現在）です。2011年度完成予定のサンネット共同購入フローゼンセンターは障がい者が働きやすいバリアフリー施設となります。

内部通報制度

10月21日から法令遵守強化とよりいっそう働きやすい職場づくりをすすめるために現在の職員の相談受付窓口である「虹の電話」制度を拡充した、「内部通報制度＝虹の窓口」制度として運用を開始しました。

お取引先とのパートナーシップを形成、 公正な取引の徹底に取り組んでいます

お取引先コンプライアンス窓口の 設置（外部通報制度）

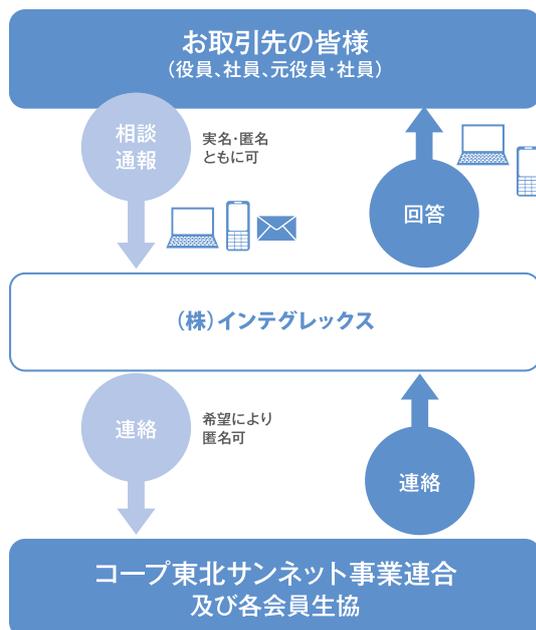
サンネット事業連合と加盟する7生協（コープあおもり、コープあきた、秋田県北生協、いわて生協、生協共立社、みやぎ生協、コープふくしま）が、一緒に「お取引先コンプライアンス窓口」を設置し、2010年7月1日より運用を開始しました。

この窓口を設置した目的は、生協及び生協子会社の役員、お取引先による不正な取引、契約違反、産地偽装、製造日改ざんなどの法令違反行為に関する通報・相談を、お取引先の役員・社員（元役員・社員を含む）の方にお願ひし、これらの問題の解決を図ることで、コンプライアンスの推進を図るためです。

通報・相談の受付窓口は、透明性や秘匿性を確保するために、第三者機関に委託しています。お取引先には制度の内容を理解していただくために、専用のリーフレットを送付しました。公正な取引を推進し、いつでも安全・安心な商品とサービスをメンバーに提供できるよう、お取引先との信頼関係を構築していきます。



リーフレット



公正な取引の徹底

「公正な取引の徹底」はみやぎ生協の事業活動にとって、もっとも重要なものであると同時に、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（独占禁止法）の第19条（不正な取引方法の禁止）及び、一般指定第14号（優越的地位の濫用）に抵触するような優越的地位の濫用は、決して行ないません。

お取引先とのパートナーシップ

毎年6月、お取引先の中から選任された「呼びかけ人」が主催する「みやぎ生協の方針を聞く会」を開催しています。これは、お取引先にみやぎ生協の次年度の方針をご理解いただき、よりよきパートナーシップを形成していく一助とすることを目的としています。

1982年にみやぎ生協が設立して以来続いている会で、2010年度はお取引先約800社、1,100名の参加がありました。



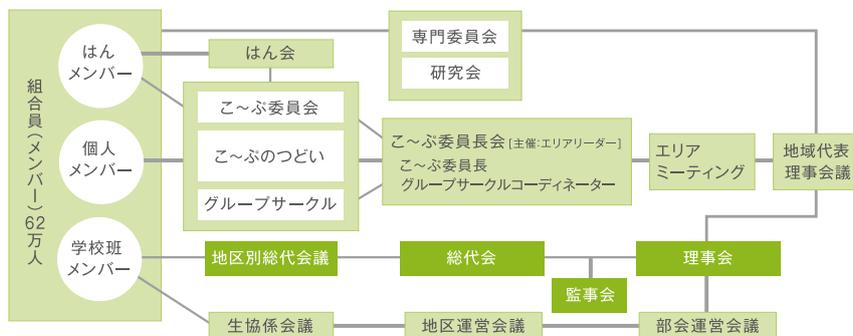
方針を聞く会の様子

コンプライアンス研修を 進めています

商品部の仕入れ担当者を対象にした「法務研修会」を日本生協連から講師を招いて実施しました。仕入れ契約、返品、協賛金などについて、法的な観点から学習しました。今後も継続して取り組みます。

機関運営とコンプライアンス経営の仕組み

運営組織図(あらまし)



みやぎ生協のしくみ

総代・総代会

「総代会」は生協の最高意思決定機関で、毎年6月に開催されます。60万人以上のメンバーが集まって総会を開催することは出来ませんので、メンバーの代表(総代)による「総代会」を開催し、毎年の決算や剰余金処分・翌年度の事業計画・予算などを決定します。総代会の前には県内約30ヶ所で「地区別総代会議」を開催し、多くの総代のご意見を伺う機会も設けています。

理事会・常勤理事会

理事は、総代会の決定に基づき生協の業務執行を担っています。また、理事会の構成員として重要事項の意思決定に参画するとともに、代表理事による業務執行の全般について監視・監督します。常勤理事会は、理事会で議決が義務付けられている事項以外の業務執行を理事会より委任されています。日常の業務執行に必要な事項の意思決定、理事会議決事項と報告事項について検討、整理し理事会に提案しています。

こ〜ぶ委員会

こ〜ぶ委員会は概ね小学校区単位を基本に、はん数にして50~100はんで構成し、委員を選出し、年10回のこ〜ぶ委員会を開催しています。その活動は委員会の自主性に任せられますが、生協への意見・要望などを提案したり、メンバー同士のくらしの知恵をわいわい交流し、地域のメンバーの活動を豊かにするものです。

監事会活動の強化

監事会は、決算や理事の業務執行の監査だけではなく、監事自身による事業所の調査や所属長へのヒヤリング、理事会前の代表理事との定期協議、他生協のコンプライアンス経営の調査など、監事会活動を一層強めています。

また、2009年度以降は、法定員外監事(生協法で選出が義務付けられた監事)を選出し、監事会機能をさらに強める体制が整いました。

外部によるチェック・指導

みやぎ生協が行う諸活動や事業は、下記のような外部によるチェック・指導を受けています。

- 公認会計士(会計処理、財務報告の適正化と監査)
- 顧問弁護士
(法務の適正化、訴訟対応、職員からの直接通報の受け付け)
- 産業医
(職場の安全・労働衛生状況に関する調査・指導)
- 環境監査委員会
(環境活動に対する学識経験者・メンバー代表・監事による監査)
- 外部環境審査(ISO14001認証機関による審査)
- 宮城県による指導検査(生協法94条による)

みやぎ生協の組織概要

供給高	984億81百万円(前年比97.3%／店舗712億円、共同購入255億円、サービス17億円)
主な事業内容	生鮮食品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業(店舗・共同購入)文化サービス事業・受託共済事業
出資金	213億43百万円
職員数	7,601人(正規874人、パート・アルバイト・嘱託6,727人)※出向者含む
子会社	(株)コープフーズ東北、(株)宮城県学校用品協会、(株)コープトラベル東北、(株)パティオ西多賀、(株)コープ総合サービス、(株)コープエステート
主な加盟団体	日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

メンバー(組合員)数、はんメンバー数、はん数の推移

項目	期末メンバー(組合員)数	年間増加数(人)	期末はんメンバー数	年間増加数(人)	期末はん数
2009年度	614,869	11,949	138,787	522	41,029
2010年度	627,203	12,334	139,013	226	41,633

2010年度決算概要

供給高は984億円で、5年ぶりに1千億円を割り込みました。経常剰余金は震災の影響で前年・予算は達成できませんでしたが、約33百万円の黒字は確保しました。しかし、震災被害などで59億76百万円の特別損失を計上し、2010年度当期剰余金は64億77百万円の赤字になりました。みやぎ生協発足以来初の累積損失を計上することとなりました。

出資金は213億円となり、前年度末から約3億円の増加です。

店舗事業の経常剰余金は、10億30百万円の赤字でしたが前年より改善することができました。また、作業改善による

労働時間の削減や供給促進や消耗品などの物件費を削減することができました。

共同購入事業は供給高予算を達成しました。経常剰余金予算は、震災により達成できませんでした。しかし、作業改善による労働時間の削減や供給促進や消耗品などの物件費を削減することができました。

サービス事業分野では、経費のコントロールが進み、89百万円の経常剰余金を確保し、予算を達成しました。

コープ東北サンネット事業連合

～東北6県の生協と共同しています～

サンネットは、1995年に設立され、現在東北6県7つの生協が加盟する事業連合です。商品の共同開発・共同仕入、共同購入事業の統一化などを進め、各会員生協の収益改善に貢献しています。特に共同購入事業ではカタログチラシ「Week」の一本化をはじめ、利用者定着の取組みなどの運営面も前進し、厳しい経済情勢の中、2010年度の供給高予算を達成しました。

食品の安全を確保するため、組合員からのお問合せやお申し出の管理システムも共同で使用、前進しています。重大商品事故発生時対応マニュアルの共有化や、重大商品事故を想定したクライシス対応の訓練など、管理体制を強化しています。

◆サンネット事業連合に関する詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.snet.coop/>



04

私たちのかけがえのない環境を 未来に残していく取り組みを進めています

環境理念・環境方針、環境マネジメントシステム

環境理念

みやぎ生協は、メンバー(組合員)と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

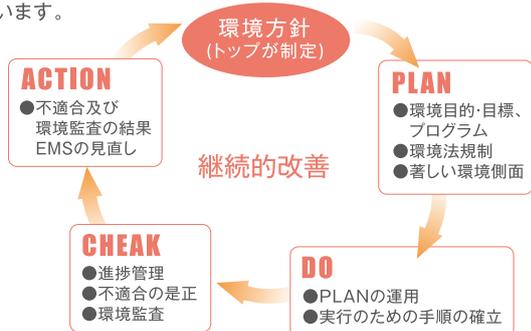
環境方針

- 1) みやぎ生協は、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバーに供給していることを踏まえ、事業活動、商品、サービスが環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を設定し、定期的に見直すことによって環境マネジメントシステムとパフォーマンスの継続的な改善・向上を図ります。
- 2) みやぎ生協は、環境関連の法律、規制、条例及びその他の受け入れを決めた要求事項(協定書など)を順守するとともに、必要に応じて自主基準を制定し管理を進めます。
- 3) みやぎ生協は、環境汚染の予防に努めると共に、みやぎ生協の事業活動及び商品、サービスの環境に与える著しい影響を特定し、3つのテーマを基本にした環境中期計画を策定し、事業とメンバーが一体となった環境保全活動に取り組みます。
 - ① 低炭素社会構築に向けて
CO₂排出削減の取り組みにつながる諸施策を進め、CO₂総量での削減に取り組みます。
 - ② 循環型社会構築に向けて
廃棄物の削減につながる値引き廃棄ロス商品の削減や、廃棄物自己処理システム(リサイクルセンター)による廃棄物の再資源化と食品などのリサイクル率の向上を図るとともにメンバーや市民からの再資源化物回収拡大を進めます。
 - ③ 生物多様性の保全に向けて
生物多様性基本法で国の取り組み義務とされた生物多様性に配慮した原材料の利用、有機農業の促進、エコツーリズムの取り組みをみやぎ生協も推進します。
- 4) みやぎ生協は、定型教育、部内報、事業所毎の会議等により、職員に対する教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。
この環境方針は、生協内外に公表します。

改定日2011年1月10日
みやぎ生活協同組合
専務理事 宮本 弘

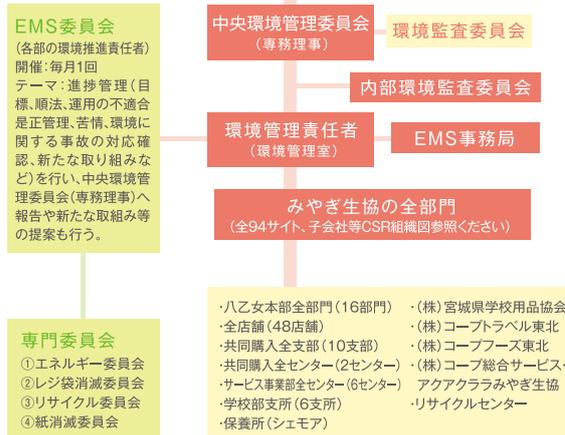
環境マネジメントシステムの推進(PDCAサイクル)

1998年度にISO14001認証を取得して以来、PDCAサイクルに基づくEMS(環境マネジメントシステム)を構築し運用しています。



◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。
<http://www2.miyagi.coop/about/kankyau/>

環境管理体制



低炭素社会構築に向けて一歩ずつ確実に進めています

低炭素社会構築に向け、先進的な省エネ機器やBDF燃料への切替えなどの施策でCO₂排出総量を削減する取り組みを続けています。昨年度と比較し、春先の寒さや夏場の猛暑の影響で空調、冷凍・冷蔵設備等の稼働が大きく伸びたことから、LPG、重油の使用量は増加しましたが、省エネ機器の導入や店舗を中心とした電気使用量を抑制・削減する各種取り組みにより、生協全体の年間電気使用量は昨年を下回ることができました。

2010年度CO₂排出量

項目	使用量	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
電気 (エネルギー)	78,945.426kwh	29,841
A重油 (エネルギー)	1,197.800ℓ	3,246
灯油 (エネルギー)	389.187ℓ	970
都市ガス (エネルギー)	53,559m ³	113
LPG (エネルギー)	682.133m ³	4,157
ガソリン (生協車両)	195.698ℓ	454
軽油 (生協車両)	756.848ℓ	1,986
LPG (生協車両)	108.426ℓ	182
合計		40,950
排出量t-CO ₂ /1億円		42.5

太陽光発電を増設しました

地球温暖化防止対策と化石燃料の枯渇防止のため、自然エネルギーを利用した太陽光発電システムを2010年12月に富沢店に50kW、共同購入石巻支部に10kWを設置しました。2000年設置の亘理店10kWを始め、2009年の明石台店、塩釜栄町店の2店舗計120kWと合わせ、合計5事業所の総出力は190kWになりました。この取り組みによるCO₂の削減効果は年間約69tとなります。



石巻太陽光



富沢店太陽光

BDFステーションを新設しました

CO₂削減の取組みとして共同購入配送車のBDF(バイオディーゼルフュエル)燃料切り替えと給油スタンド設置計画をたて、北支部と東支部にBDF給油スタンドを設置しました。2011年度からの給油開始にともない、北支部10台、東支部10台の軽油燃料配送車がBDF燃料車に切り替わります。また、リサイクルセンターの車輛もBDF燃料に切り替える計画を進めています。

市民からの廃油回収を拡大しました

名取市の3R推進事業である使用済み天ぷら油回収事業に協力し、市内にある名取西店・閑上店の2店舗に「家庭用てんぷら油回収BOX」を設置しました。初年度の回収量は名取西店1,308ℓ、閑上店719ℓでした。

環境に配慮した省エネ機器を積極的に導入しています

店舗の冷ケースにオーバークャンピー照明を導入しました。年度計画導入事業所(愛子店、高森店、榴岡店、岩沼店、八幡町店)の5店舗に加え、南小泉店、柏木店、西多賀店、塩釜杉の入店の4店舗に追加導入しました。この結果年間では102tのCO₂を削減することができました。また、2店舗にLEDスポットライトを設置するとともに、本部事務所へのLED照明の導入を進めました。



オーバークャンピー照明



LEDスポットライト

レジ袋有料化を全店で実施・継続し、レジ袋を大幅に削減しています

レジ袋の有料化と合わせマイバックを持参していただく取り組みを継続しています。マイバックの平均持参率は有料化実施前の35%から約87%に向上しました。

商品を通して自然と環境への配慮

環境に配慮した商品の4つのポイント、環境汚染の低減、廃棄物の削減、資源の有効利用、水環境の保全に加え、地場素材を積極的に使用した地産地消の商品の開発を行っています。



環境配慮商品(雑貨品)

循環型社会構築に向けて、前進しています

リサイクルセンターの堆肥は、安定した生産をしています

店舗の農産部門から出る生ごみの内、野菜・果物クズを分別回収して、リサイクルセンターで堆肥化し販売しています。野菜・果物クズの回収量は765t（前年比94%）、堆肥生産量は121t（前年比86%）でした。生産した堆肥60tを「JAみどりの」へ出荷しました。



堆肥の切り返し

リサイクルセンターで生産された堆肥を使用した農作物

生産した堆肥は、産直ふるさと米の産地である「JAみどりの」で使用され、「産直ふるさと米」生産の水田5haに使用しました。収穫された「ひとめぼれ」は、5kg3,800袋を店舗で販売しました。



圃場に堆肥を施肥



販売した「ひとめぼれ」

リサイクルセンターの堆肥以外の再資源物

種類(再資源化の内容)	処理量	前年比
ダンボール(古紙)	5,632.9t	94.3%
チラシ(古紙)	3,740.9t	95.9%
模造・雑紙(古紙)	224.7t	97.6%
牛乳パック (トイレトペーパー)	196.1t	97.5%
発泡スチロール (プラ原料)	173.8t	94.2%
魚腸骨 (飼料・肥料)	383.1t	118.6%
卵パック (ペット原料)	27.6t	95.1%
野菜・果物くず(堆肥)	765.6t	94.3%
廃プラ(固形燃料)	164.5t	93.3%
鉄くず(鉄原料)	9.5t	111.7%
廃蛍光管(ガラス原料等)	4.5t	132.3%

「古紙リサイクルポイントシステム*」の設置店舗を拡大しました

家庭ごみ削減の取り組みの一環として2010年4月1日に岩切店、塩釜杉の入店で開始した「古紙リサイクルポイントシステム」は、実施店舗周辺のメンバーから好評をいただくとともに、各店舗への設置を望む声も寄せられ、10年度に新たに6店舗拡大し、合計8店舗となりました。

回収量は、当初見込んでいた1日1トン/1店舗に対し、平均で約1トンと計画通りの回収で推移しています。この古紙リサイクルポイントシステムは、「回収日が少なく古紙が溜る」「回収日に出し忘れた」などの解消につながり、古紙リサイクルの拡大と、家庭ゴミ削減の循環型社会作りに貢献する取り組みです。

今後も、回収能力及び店舗の設置条件を考慮しながら設置店舗の拡大を行います。

*「古紙リサイクルポイントシステム」は、メンバーが来店の際に古紙（新聞紙、チラシ、雑誌など）を持参し、店舗敷地内に設置した計量器付きコンテナで重量を計測、その重量に応じてポイントが貯まり、一定ポイントになるとみやぎ生協商品券に交換できるシステムです。



古紙回収コンテナと操作ポスト



回収された新聞紙・チラシ

「古紙リサイクルポイントシステム」設置店舗と状況

	店舗名	設置日	持ち込み件数	回収量(kg)
1	岩切店	2010/4/1	22,468	305,980
2	塩釜杉の入店	2010/4/1	12,972	157,370
3	高森店	2011/1/21	4,533	45,630
4	南光台店	2011/1/21	3,572	34,890
5	国見ヶ丘店	2011/2/1	5,379	42,630
6	愛子店	2011/2/1	6,355	39,310
7	高砂駅前店	2011/3/1	2,329	9,750
8	新田東店	2011/3/1	3,167	10,330

メンバー活動による環境保全の取り組みが広がっています

“こ～ぶの森”の活動が 広がりました

“こ～ぶの森”づくりは県内の自然と緑を豊かにする活動として1992年から始まり、これまでに18.88haに47,839本の広葉樹を植林しました。2010年4月には産直かきの産地志津川湾の上流にある「神行堂山（しんぎょうどうさん）」が6番目の“こ～ぶの森”として誕生し、84人の参加で植林を行いました。また、メンバー参加で“こ～ぶの森”をフィールドに体験会を4回（156人参加）を行い、里山保全や生物多様性保全などを実感する機会になりました。

県内に広がる“こ～ぶの森”



いろいろな方の協力を得て 森をつくっています

アルミ缶で森づくり

“こ～ぶの森”づくりのための費用は、店頭で回収したアルミ缶の売却益やレジ袋販売収益金、協賛企業からの募金、メンバーからの募金などを積み立てた「COOP緑の基金」を活用しています。2010年度は690万円の基金への協力がありました。



協賛企業からの協力も広がっています

花王エコライフキャンペーン、キリングループのキャンペーン、ロッテアイスキャンペーン、ニッポンハムフェアなどからの募金や、“こ～ぶの森”支援自販機からの募金、生協車検工場からの募金などの協力をいただき、“こ～ぶの森”づくりへの支援の輪が広がっています。募金の贈呈式を植林体験会やエリアリーダー会などで行い、共に森づくりの活動を行うことをアピールしました。



植林地の神行堂山で募金贈呈式

身近な環境を調べました

身近な環境を調べることでくらしの見直しをすすめる活動として、1992年から「水辺の観察と水質測定」（7/1～8/25）を行っています。2010年度は111地点を755名の参加で測定を行いました。「水の学習会」を5エリアで開催し、水質測定の参加者を広げ、水環境を調べることでくらしの見直しにつながりました。また、森と水のつながりを実感する機会として「夏休み親子企画さかなの森に行ってみよう～森と水辺の観察会～」を7月31日に開催し、33名の参加で森と水と生物多様性などについて学習しました。



観察会の様子

「生物多様性」の理解を広めました

2010年国連「国際生物多様性年」に関連し、学習会「わたしたちのくらしと生物多様性」を9月15日にエル・パーク仙台で開催し128人が参加しました。講師に岩瀨成紀氏（NPO法人たんぼ理事長）を迎え、生きものつながり、その大切さについて理解を深めました。



講演する岩瀨成紀氏

「冬の省エネ!チャレンジ」に
取り組みました

エネルギー使用量が増える冬に、さまざまな省エネの工夫をすることで家庭から排出されるCO₂を削減する「省エネチャレンジ!冬編」に取り組みました。1,327世帯の参加があり、わが家なりのウォームビズの工夫などが多数寄せられました。

今冬は寒暖の差はげしく、全体でのCO₂削減は達成できませんでした。今後の活動の参考になる事例を集めることができました。

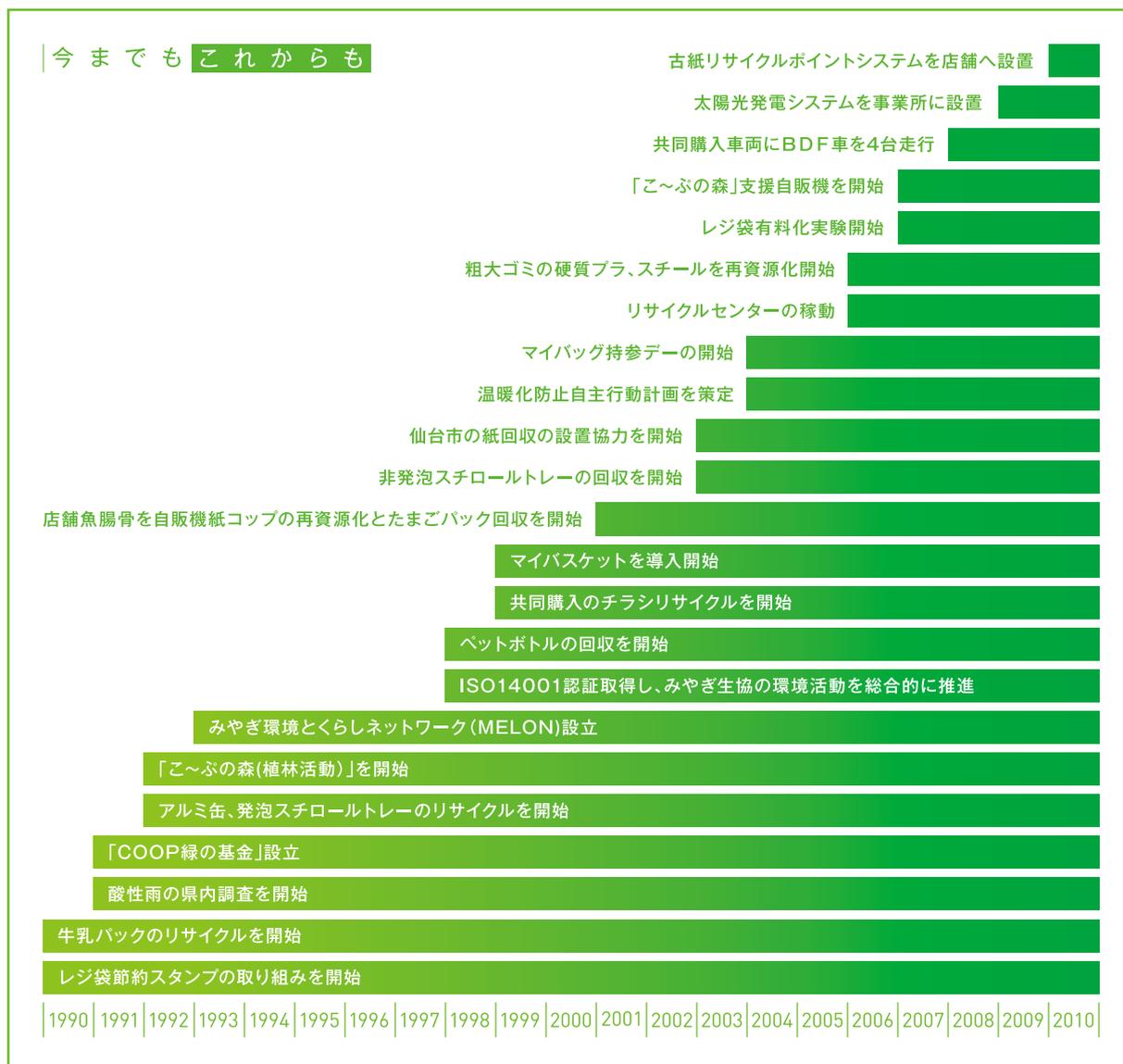
「みんなでエコ!」に取り組みました

事業ですすめている「みんなでエコ!」と連動して、みやぎ生協全体で環境月間(6/1~6/30)の取り組みをアピールしました。環境配慮商品に付加される冊子クーポンの利用率は期間中13.9%、対象商品の販売実績は対前月比で108%になり、普及をはかることができました。



みんなでエコ冊子

環境活動の歩み



◆メンバー活動による環境保全の取り組みの詳細は右記のURLからご覧ください。<http://www2.miyagi.coop/about/kankyuu/>

外部環境監査、ISO審査、内部環境監査

外部環境監査

みやぎ生活協同組合

2011年6月25日

理事長 齋藤 昭子様

環境監査委員会

委員長 鈴木 敏 央

委員 粟津 洋子 遠藤 智 栄

門田 陽子 高橋 春 男

中田 俊彦 西野 さかえ

山田 美智子 大和 きよ子

当委員会は、みやぎ生協環境管理規程第14条、同環境監査規程第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】

2010年11月13日 2010年度上期の環境監査(書類監査、「アクアクララみやぎ生協」の現地監査)

2011年 6月25日 2010年度の環境監査(書類監査及び総合監査)

【監査報告書】

みやぎ生協とメンバーの環境保全活動について、取り組みが前進したこと、および以下のことは特に評価できる。

【2010年度の評価できる点】

1. 農産部門の県内生産品および水産部門、畜産部門、惣菜部門、軽食・ベーカリー部門およびデイリー部門の県内産原料商品・県内製造品の供給高が全て目標を達成したこと。
2. 電気使用量の月度管理が徹底され、生協全体での年間電気使用量を削減できたこと、特に、店舗運営部において既存店2009年度比99%の目標に対し98.98%と達成したこと。
3. コピーカウント削減の継続的な取り組みが実を結び、2007年度比約255万カウントを削減し、結果として経費を15,860(千)円削減したこと。
4. 6月の「環境月間」を通して、事業とメンバー活動が一体となって環境配慮商品の拡大、環境に配慮した暮らし方の学習・提案を行ったこと。
5. コープフーズ東北においてパッケージセンターの時間当たり生産バック数を前年度比103%アップさせる目標に対し103.4%と達成し、生産性を向上させたこと。
6. 店頭における分別回収・再資源化によるCO₂削減効果について、検討すること。

【中期計画の最終年として評価できる点】

1. CO₂排出総量を、2007年度の41,664tに対し、2010年度40,950tと3か年でCO₂-714t削減できたこと。
2. 循環型社会への構築に向けた廃棄物の分別管理の向上を図るなどの施策により、2010年度までの3年間で500t削減する目標は、1,022t削減し、達成したこと。
3. “こ〜ぶの森”の活動がさらに広がり、産直生かきの産地である南三陸町の海に繋がる貞任山および神行堂山に3.4ha広葉樹13,324本を植林したこと。

【指摘事項】

1. 2010年度はCO₂排出量の削減目標値を達成できなかったことを踏まえ、低炭素社会構築に向け、気候変動(猛暑等)等の要因を踏まえ、更なる対策を検討し、実施すること。
2. 環境配慮商品基準の見直しを図るとともに、各部門における供給高に占める、環境配慮商品、県内生産品および県内産原料商品・県内製造品の割合を把握する手法および見える化を検討すること。
3. 東日本大震災による「環境に関する事故緊急事態の発生状況」についての記述を残し、今後の対応に役立てること。
4. 2011年1月10日に改定された「環境理念」および「環境方針」に従い、環境保全活動を推進していくこと、特に生物多様性の保全に向けた活動については、より具体的な取組目標を設定すること。

ISO審査

- 実施日 2010年10月12日～10月14日
- 審査員 3名(日本環境認証機構)
- 審査結果 EMSマネジメントシステムの総合評価は「向上」
- 所見 組織の環境マネジメントが継続的に維持改善されていることを確認した。獲得した成果を継続しつつ、新たな施策とシステムの改善を期待する。不適合0件、改善要項6件

内部環境監査

- 実施期間 2010年7月9日～8月31日
- 監査員 31名監査16チーム(2人)
- 監査所見 総数26件、重大0件、軽微5件、観察21件
- 監査結果 環境マネジメントシステムがISO14001の規格の要求事項に適合して構築され、適切に実施、維持され適合している
- その他 内部環境監査員セミナーを開催し、新たに6名養成した。

事業活動と環境のかかわり (input ◀▶ output)

エネルギー資源、水資源

電力	7,895 (7,950)	万kwh
ガス (LPガス・都市ガス)	74 (66)	万m ³
水	48 (48)	万m ³
重油	1,198 (1,113)	kℓ
灯油	389 (391)	kℓ
ガソリン	196 (188)	kℓ
軽油	756 (733)	kℓ
車両LPG	108 (122)	kℓ
BDF	14 (10)	kℓ

※ ()内は前年の数値

◆地球温暖化防止自主行動計画を策定し、温暖化ガスの削減に努めました

- 10年度は、新たに太陽光発電設備を2ヶ所に設置しました。
- 10年度計画した軽油車両からBDF車両への切り替えは、BDFプラント業者の計画延期により11年度の取り組みに変更しました。

◆事業で使用する容器包装の削減に努めました

- レジ袋の有料化を全店で実施し、持参率は86.7%でした。
- コピーカウントの削減を行う取り組みによりコピーカウント料 (▲347万円/年) を削減し経営的改善を行いました。

主な資材の消費
(容器・包装材)

レジ袋 (紙袋含)	19 (14)	t
ロールポリ袋	44 (49)	t
包装紙	8 (10)	t
簡易包装紙	1 (3)	t
PS (発泡) トレー	123 (146)	t
PS (発泡) 以外のトレー	125 (192)	t
ラップ	38 (51)	t
その他のポリ袋	109 (197)	t

〈紙類〉

コピー紙	110 (101)	t
コピー紙以外の紙	6,039 (6,125)	t

※ ()内は前年の数値

■環境会計

- ◆環境保全コスト投資額:7,816万円 (1億2,329万円)
投資の主なもの、太陽光発電設備、エコアイス、調光システム等の省エネ機器導入費等。
 - ◆費用額:3億1,623万円 (3億5,646万円)
費用の主なもの、大気汚染防止のための保守点検比や廃棄物処理費、廃プラや廃食油、魚腸骨等生ごみの再資源化費等
 - ◆環境保全対策に伴う経済的効果 (有益):
2億7,384万円 (3億887万円)
廃棄ロス品の削減や再資源化品の売却費等
- ※ ()内前年数値は一部修正を行っています。

■環境に関するご意見

- ◆環境に関する法規制等の義務は、24項目あり適切に管理しました。
- ◆環境に関するご意見は32件でした。

主な意見・事例報告など	件数
レジ袋有料化関連及びマイバスケ関連	3件
容器・包装の削減、材質改善、省資源化など	14件
古紙回収、リサイクル品の拡大など	12件
省エネ促進、その他	3件

◆事業から排出される排ガス、廃棄物の管理を推進しました

- 省エネの取り組みを行いCO₂の削減を行いました。



みやぎ

店舗
46店舗

共同購入
10支部・家電センター
富谷SC

(株)コープアース東北 (CFT)
魚センターライン
肉センターライン
豆腐ライン・揚げライン

(株)コープトラベル

◆メンバーの協力で再資源化の取り組みが向上しました

- 古紙回収ポイントシステムを新たに8店舗で開始しました。
- ペットボトル、トレイ、アルミ缶、卵パック、クリーニングハンガー、ペットボトルキャップ、古紙回収庫が前年をオーバーしました。



生協

サービス保障事業

サービスグループ
住まいのサービス
プリエ案内センター
共済センター
共同保険センター
水事業センター

(株)学校用品協会

車両使用台数

- ・ディーゼル車382(362)台
- ・BDF車6(5)台
- ・ガソリン車151(153)台
- ・LPG車41(43)台

※()内は前年の数値



(CO₂)

事業上排出されるCO₂:
40,950t(40,487)t/CO₂

(廃棄物)

廃棄物の排出量(再資源化以外):
4,026t(4,224t)

※()内は前年の数値

分別による再資源化ができています

【店頭等の分別回収した再資源化量：6,593t】



回収品目	回収量	リサイクル率	再資源化
ペットボトル	124(89)t	6.2%	再生原料
牛乳パック	218(227)t	115.4%	トイレットペーパー・古紙
トレイ	149(140)t	41.4%	再生トレイ
アルミ缶	68(60)t	37.6%	再生原料
共同購入チラシ	3,741(3,899)t	71.8%	古紙の原料
卵パック	38(29)t	62.3%	再生原料
クリーニングハンガー	39(36)t	—	再利用
筒型乾電池類	3(3)t	—	原料化
ペットボトルキャップ	7(4)t	—	再生原料
古紙回収ポイントシステム	719(-)t	—	古紙の原料
仙台市古紙回収庫	1,488(1,479)t	—	古紙の原料

※()内は前年の数値

◆事業から発生する排出物の再資源化を推進しました

- おからは生産数の減、不良品ロット減の取り組みが進みました。
- リサイクルセンターで生産した堆肥を「JAみどりの」の産直田圃5hで使用され産直ふるさと米として供給しました。

みやぎ生協の事業から発生する排出物を分別、再資源化を行うことで、前年より0.6ポイント向上し79.9%となりました

※事業系再資源化率=再資源化重量÷(再資源化重量+廃棄物重量)=79.9%(前年79.3%)
※分別再資源化した量:16,086.1t(16,250.5t)



品目	回収量	再資源化
紙	1,578(1,507)t	古紙に再生
チラシ	3,741(3,899)t	古紙に再生
ビン・スチール・アルミ	131(127)t	再資源化
発泡スチロール	228(232)t	再生プラスチック
ダンボール	7,263(7,277)t	古紙に再生
食用廃油	297(307)t	インク・ペットフード・飼料原料
おから	1,151(1,265)t	家畜飼料
魚腸骨	401(335)t	家畜飼料・肥料
牛脂	145(142)t	油・飼料
揚げロス	34(34)t	家畜飼料
野菜果物クズ	766(811)t	堆肥化
廃プラスチック	165(176)t	高炉還元剤
粗大ゴミ・蛍光管	187(131)t	原料化

※食品リサイクル率

みやぎ生協: 2,920.6t÷4,503.5t=64.9%(64.7%) ※廃家電品排出量(引取り家電品):
コープフーズ東北: 1,384.1t÷1,384.7t=99.9%(99.9%) 460台(976台)

※()内は前年の数値

みやぎ生活協同組合

CSR Report 2011

社会・事業・環境活動についての報告書

発行日: 2011年7月20日 (次回発行予定 2012年5月)

発行: みやぎ生活協同組合

〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

お問い合わせ先

○総務部機関運営課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821

○環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス みやぎ生活協同組合 <http://www2.miyagi.coop/>

本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。

この報告書は、植物性大豆インキと再生紙を使用しています。



環境に配慮し、植物性ソイ(大豆)インキを使用しています。



みやぎ生協は、1998年から全店舗、店舗以外の全事業所と子会社で環境負荷低減のための環境マネジメントシステムであるISO14001の国際認証を取得し、継続して管理しております。